

第2章 総社市における地域・交通特性の整理

1. 地域特性

1-1. 位置及び地勢

本市は岡山県の中南部に位置し、周囲は山地に囲まれ、山地から流れる大小の河川と広い平野を擁する都市です。

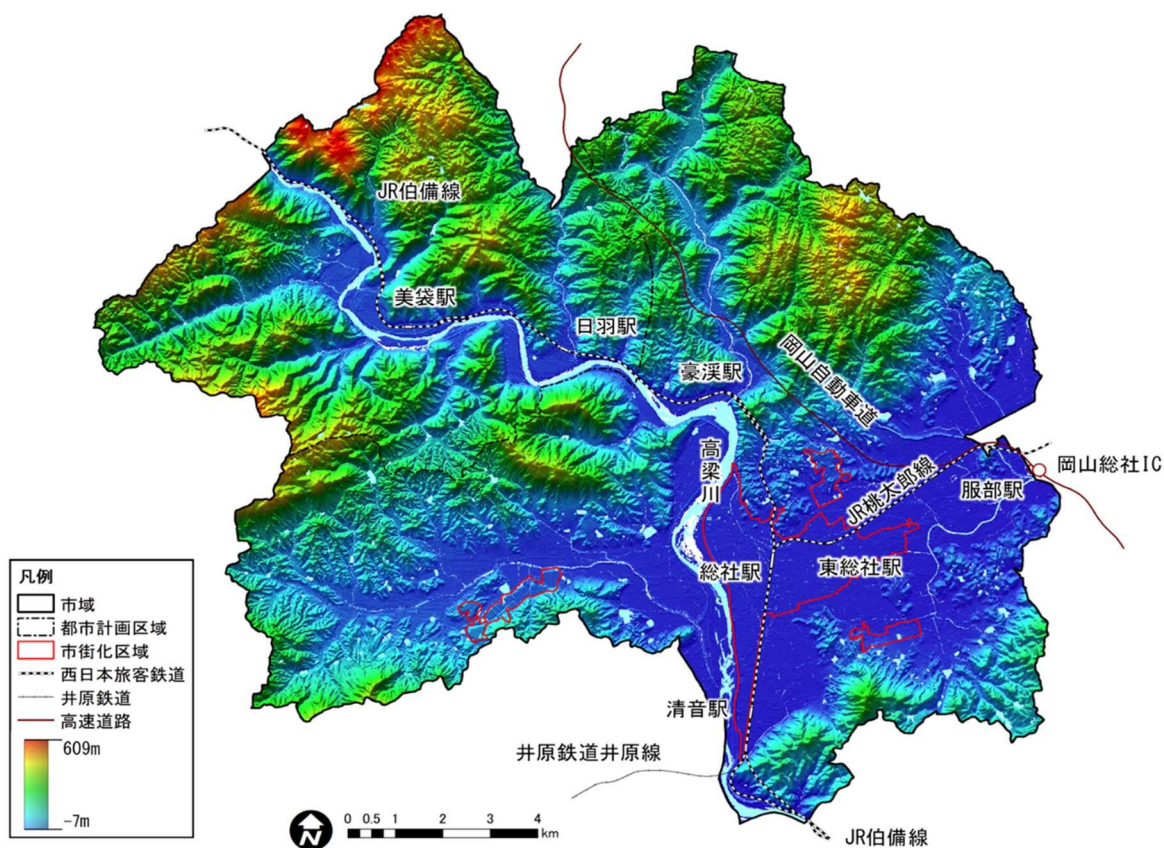
県下三大河川のひとつ高梁川は市の中央部を流れ、西部の新本川、北部の槇谷川がそれぞれ高梁川に注いでいます。東部の前川、砂川等の中小河川は、足守川（岡山市）に注いでいます。西部、北部は、大部分が標高300～500mの山地で占められており、急傾斜地等が多くみられます。

南東部には平野が広がり、JR 総社駅周辺には市街地が形成されています。また、岡山自動車道岡山総社ICは、東部の岡山市との境界に位置しており、広域的な交通のアクセスが良好な立地環境となっています。

図 総社市の位置



図 総社市の地形



出典：基盤地図情報数値標高モデル（2025年6月）を加工して作成

1-2. 人口集中地区の動向

人口集中地区（DID, Densely Inhabited District）は、人口が集中している地域を抽出するものとして、国勢調査区（基礎単位地区）において、人口密度が40人/ha以上の調査区が隣接して5,000人以上を有する地域を示します。

本市の人口集中地区（以下、DID）は、昭和40年（1965）国勢調査において1.00km²が設定されて以降、拡大を続け、令和2年（2020）には4.88km²となり、これは市全域の約2%に相当します。

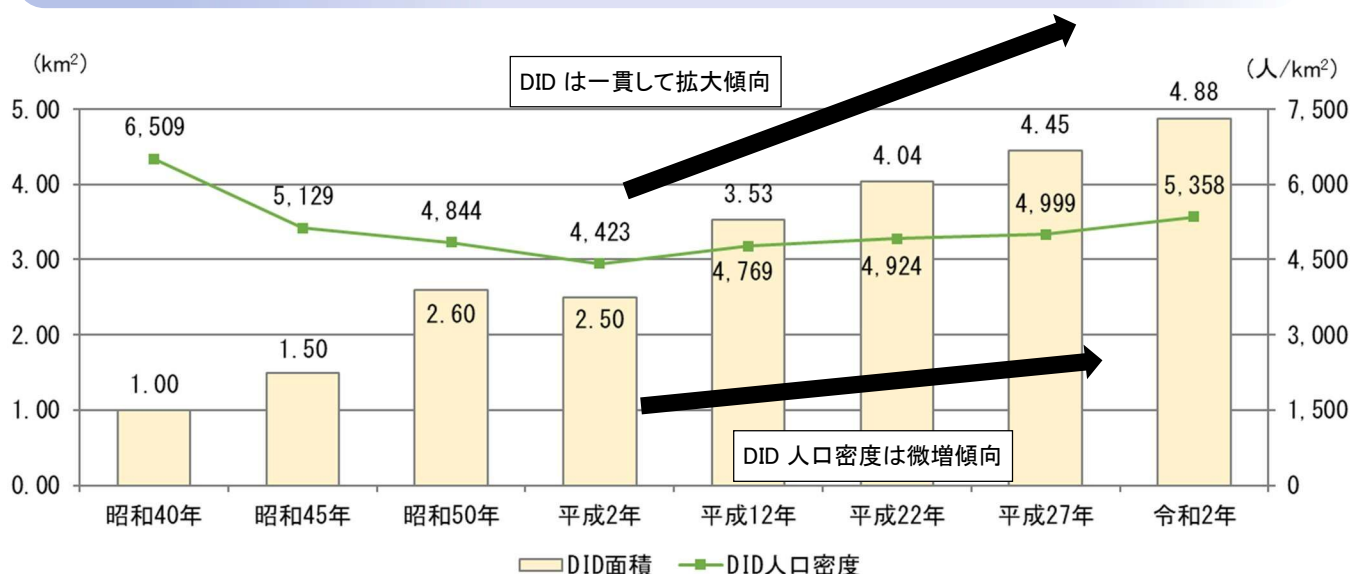
また、DID人口密度の推移をみると、昭和40年の約6,500人/km²以降、一貫して減少傾向が続いていましたが、平成2年（1990）（約4,400人/km²）以降は増加に転じ、令和2年には約5,400人/km²にまで増加しています。

表 人口集中地区（DID）

調査年	DID 人口(人)	DID 面積 (km ²)	DID 人口密度 (人/km ²)	市全域に占める 人口集中地区 の面積割合 (%)
昭和40年	6,509	1.00	6,509	0.8
昭和45年	7,694	1.50	5,129	1.2
昭和50年	12,594	2.60	4,844	1.3
平成2年	11,057	2.50	4,423	1.3
平成12年	16,835	3.53	4,769	1.8
平成22年	19,893	4.04	4,924	1.9
平成27年	22,245	4.45	4,999	2.1
令和2年	26,147	4.88	5,358	2.3

出典：国勢調査，国土数値情報[人口集中地区]

図 人口集中地区（DID）面積及び人口密度の推移（昭和40年（1965）～令和2年（2020））



出典：国勢調査，国土数値情報[人口集中地区]

1-3. 人口動向

1-3-1. 人口推移

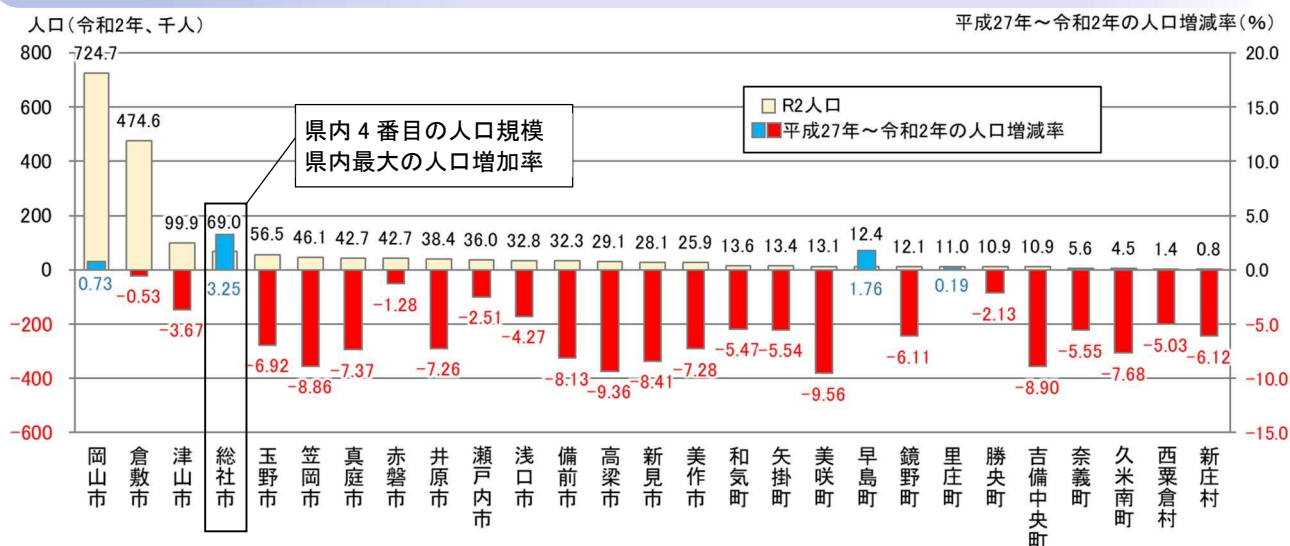
■ 現状

国勢調査における本市の人口は令和2年（2020）時点で69,030人であり、県内4番目の規模となっています。また平成27年（2015）からの変化をみると、人口増の傾向を示すのは総社市のほか、岡山市、早島町、里庄町のみとなっています。平成27年から令和2年までの増減率は3.25%増となり、これは県内で最も高い水準となっています。人口推移は、昭和55年（1980）以降、平成7年（1995）まで増加していましたが、平成12年（2000）以降はほぼ横ばいから微増で推移しています。

■ 将来

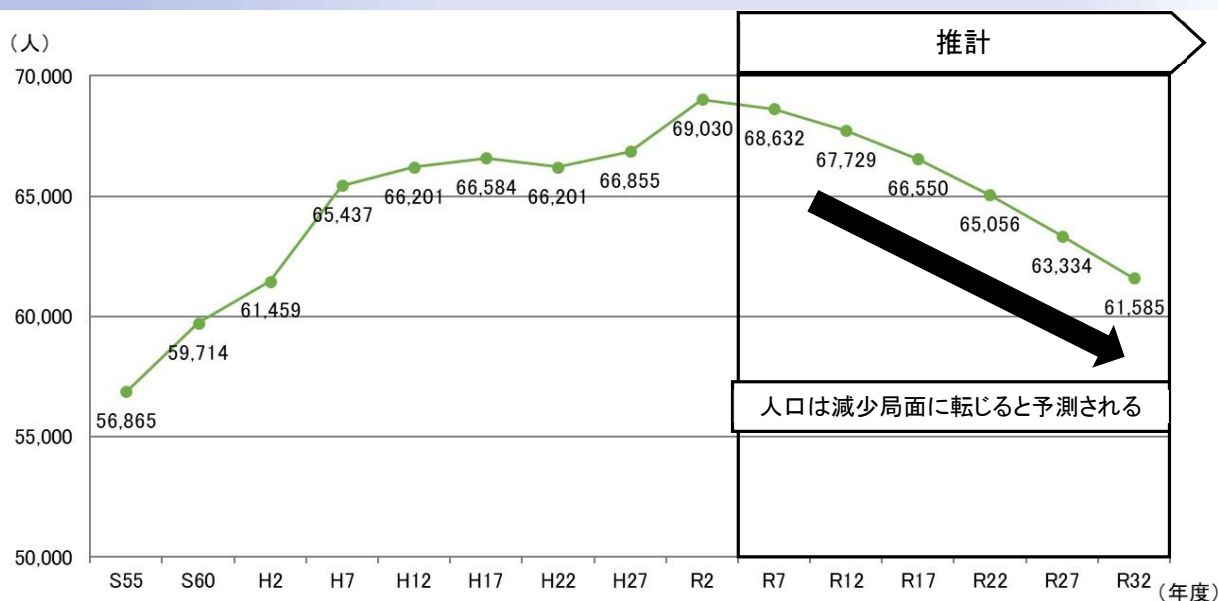
国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口によると、自然減（死亡者数が出生数を上回る状態）の拡大や市への転入者の減少を背景として、人口は今後減少に転じ、令和32年（2050）には61,585人まで減少すると予測されています。（将来的な人口の推移として、令和32年を見据えます。）

図 県内市町村の人口（令和2年（2020））



出典：令和2年国勢調査

図 人口の推移



出典：昭和55年～令和2年：国勢調査，令和7年～令和32年：国立社会保障・人口問題研究所推計値

1-3-2. 人口分布

(1) 現況人口分布

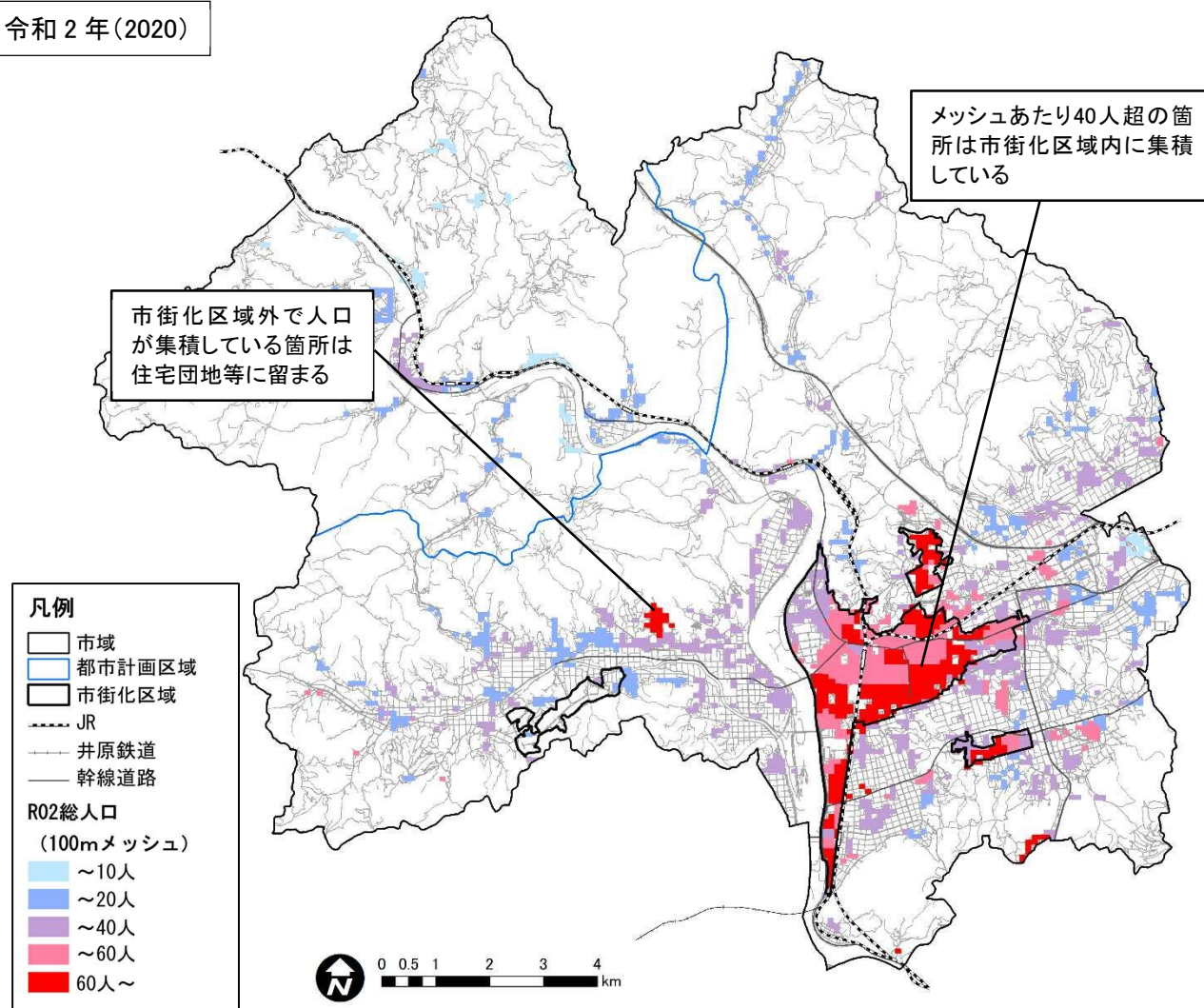
国勢調査によるメッシュ（100m）ごとの人口の状況を以下に示します。

令和2年（2020）の人口密度の状況をみると、メッシュあたり40人超の箇所の多くが市街化区域内に所在しており、特に60人超の箇所は、JR 総社駅から JR 東総社駅にかけての一带や泉地区に集積しています。

一方、市街化調整区域及び都市計画区域外では、あおいハイツ（久代地区）や泉北ニュータウン（福井地区）、三須桃山団地（三須地区）など一部の住宅団地を除いて、40人以下の箇所が広がります。

図 メッシュあたり人口の分布状況（令和2年（2020））

令和2年(2020)



参考：国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール」（ver3）を用いた計算結果を加工して作成
※人口は令和2年国勢調査に基づく

(2) 将来人口分布

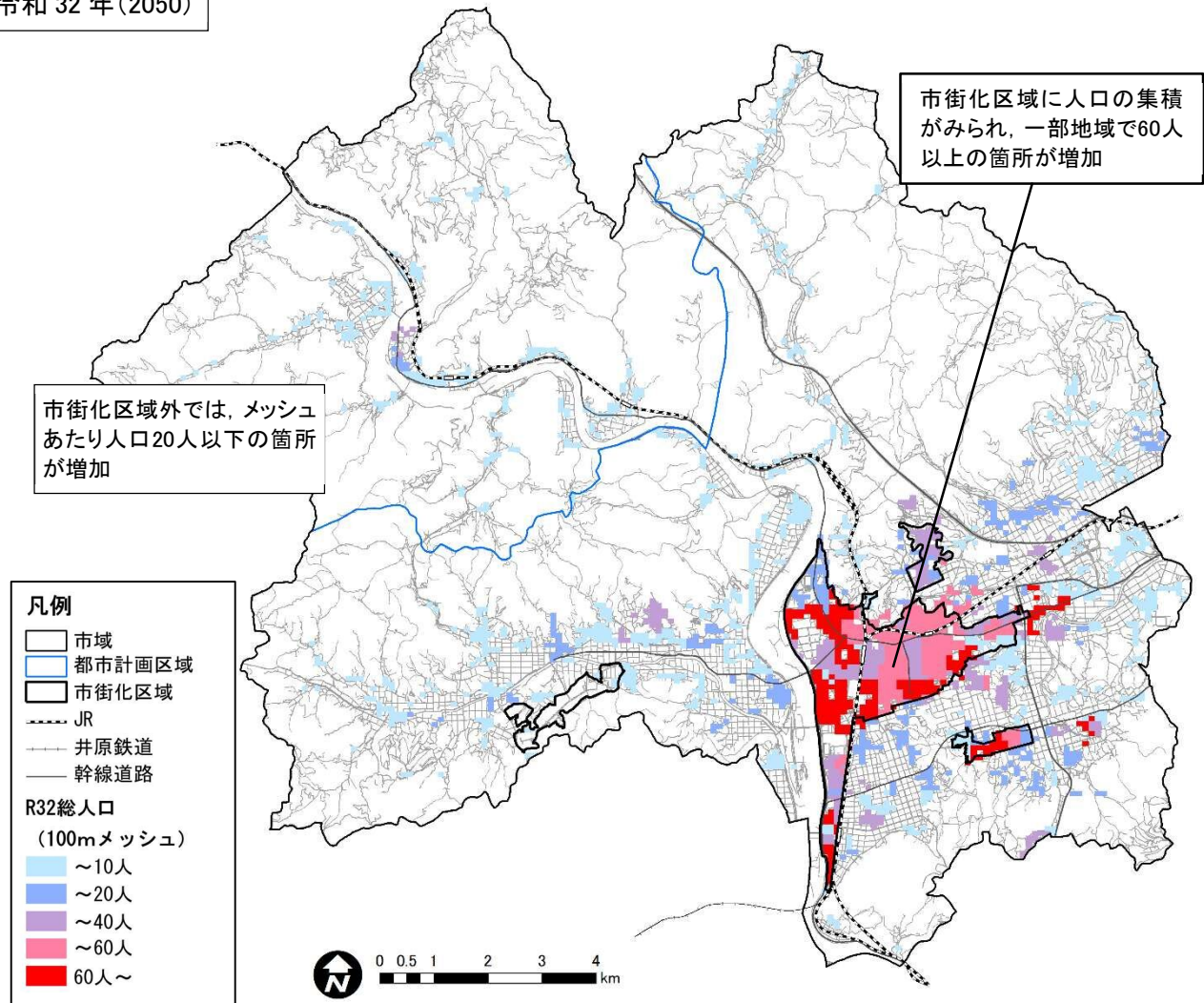
将来人口推計によるメッシュ（100m）ごとの人口の状況を以下に示します。

市街化区域内を中心とした人口の集積は、令和 32 年（2050）においても同様の傾向が示され、市全体では人口の減少が進みますが、市街化区域内の JR 総社駅南側一帯ではメッシュあたり 60 人超の箇所が増加することが予測されます。

市街化調整区域及び都市計画区域外は、特に人口の減少傾向が顕著にみられ、人口が維持されるのはあおいハイツ（久代地区）など一部の住宅団地に留まり、多くが 20 人以下となることが予測されます。

図 メッシュあたり人口の分布状況（令和 32 年（2050））

令和 32 年(2050)



参考：国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール」(ver3)を用いた計算結果を加工して作成
※人口は社会保障・人口問題研究所推計に準じて算出（令和2年人口を基準）

1-3-3. 人口構造

(1) 年齢3区分

年齢3区分別人口構成比は、令和2年（2020）時点で年少人口率（0～14歳人口の割合）は13.9%と県平均（12.4%）を上回っており、県下でも3番目に高い割合となっています。また、高齢化率（65歳以上人口の割合）は28.3%と県平均（30.3%）を下回っており、県下でも岡山市、早島町に次ぐ低い割合となっており、年少人口及び生産年齢人口（15～64歳人口）が比較的維持された、県内市町村と比して若い世代が中心となっているまちといえます。

しかしながら、過去からの推移をみると、平成7年（1995）以降、年少人口率及び生産年齢人口率が一貫して減少する一方、高齢化率（65歳以上人口の割合）は増加の傾向が続いています。また、国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口によると、今後もこの傾向は続くものと予測され、令和32年（2050）には、年少人口率は11.9%に減少、高齢化率は34.6%に増加しており、少子高齢化が大きく進展するものと考えられます。

図 県内市町村 年少人口率（令和2年（2020））

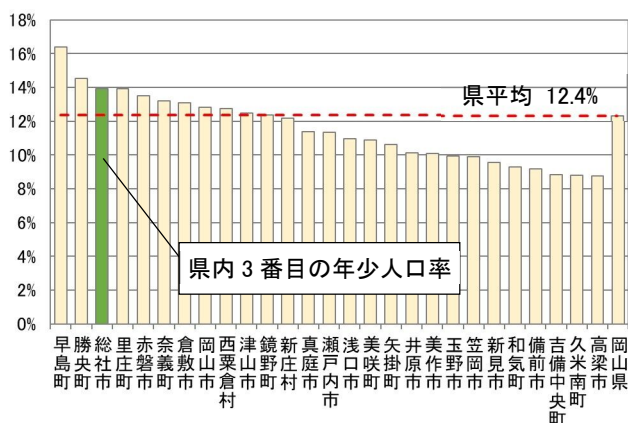
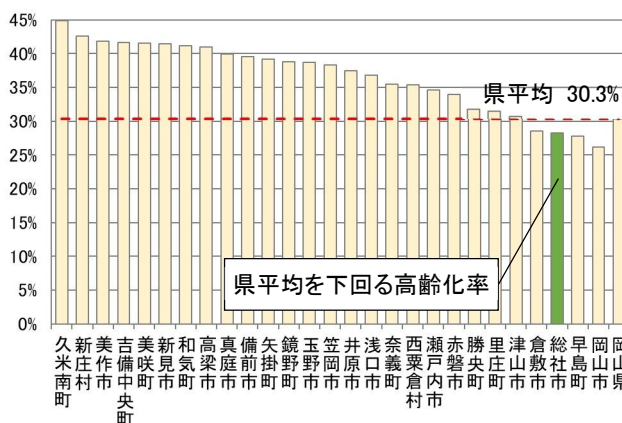
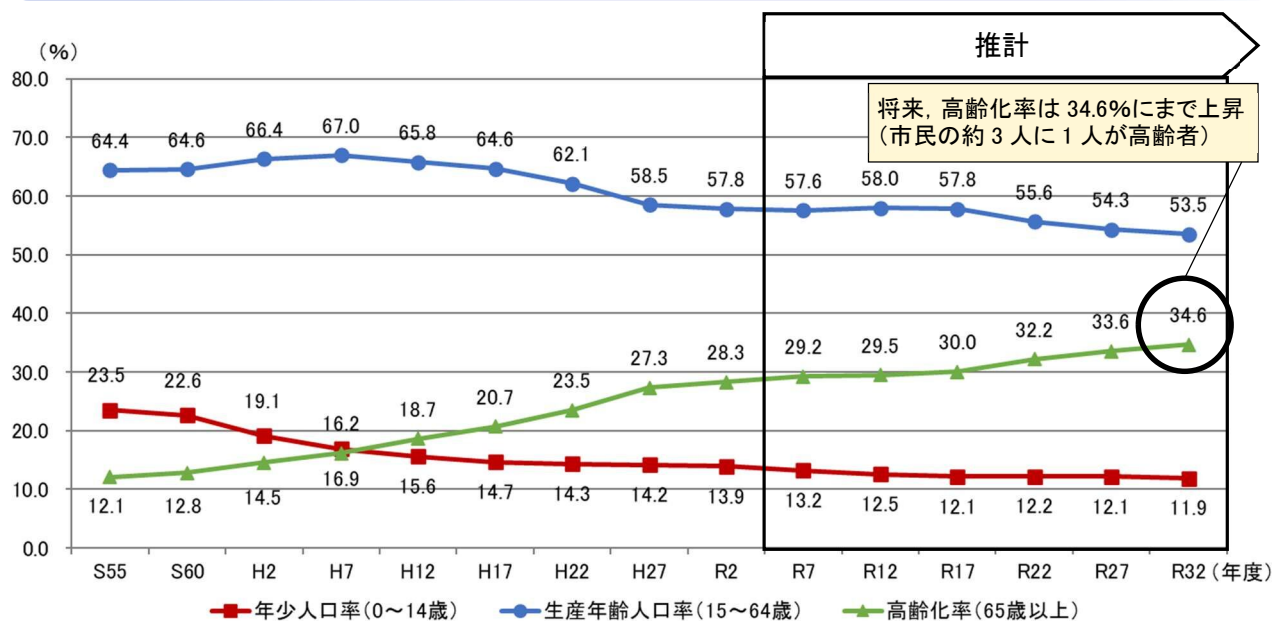


図 県内市町村高齢化率（令和2年（2020））



出典：令和2年国勢調査

図 年齢別人口構成比の推移



出典：昭和55年～令和2年：国勢調査，令和7年～令和32年：国立社会保障・人口問題研究所推計値

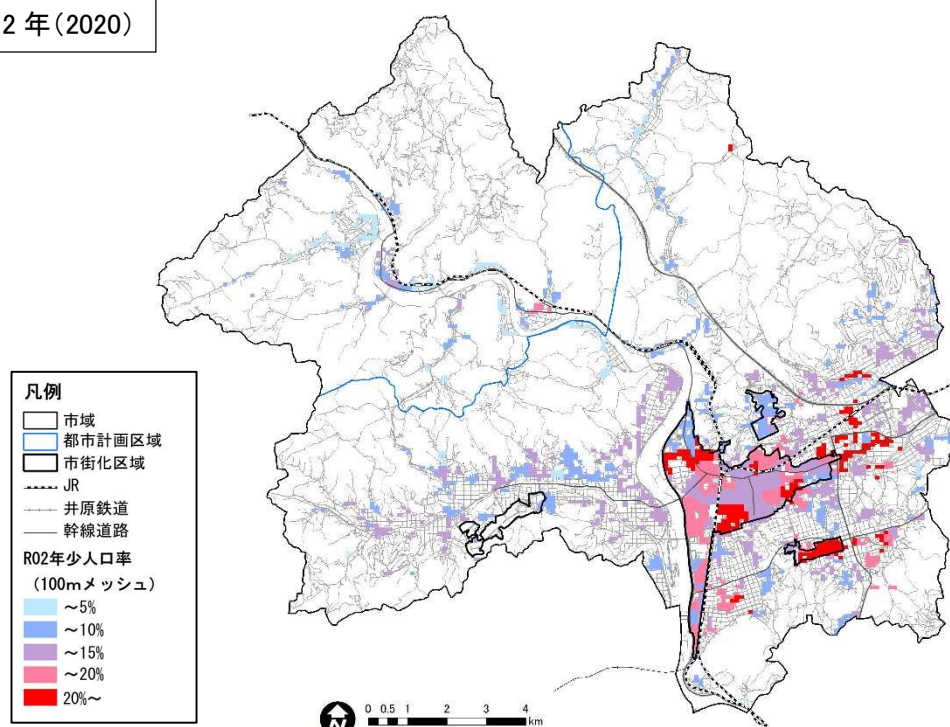
(2) メッシュあたり年少人口率の変化

メッシュ（100m）あたり年少人口率の分布状況をみると、令和2年（2020）では市街化区域及び市南東部一帯に15%以上の箇所が広く分布していますが、令和32年（2050）には市南東部や住宅団地の一部を除き15%未満となっています。

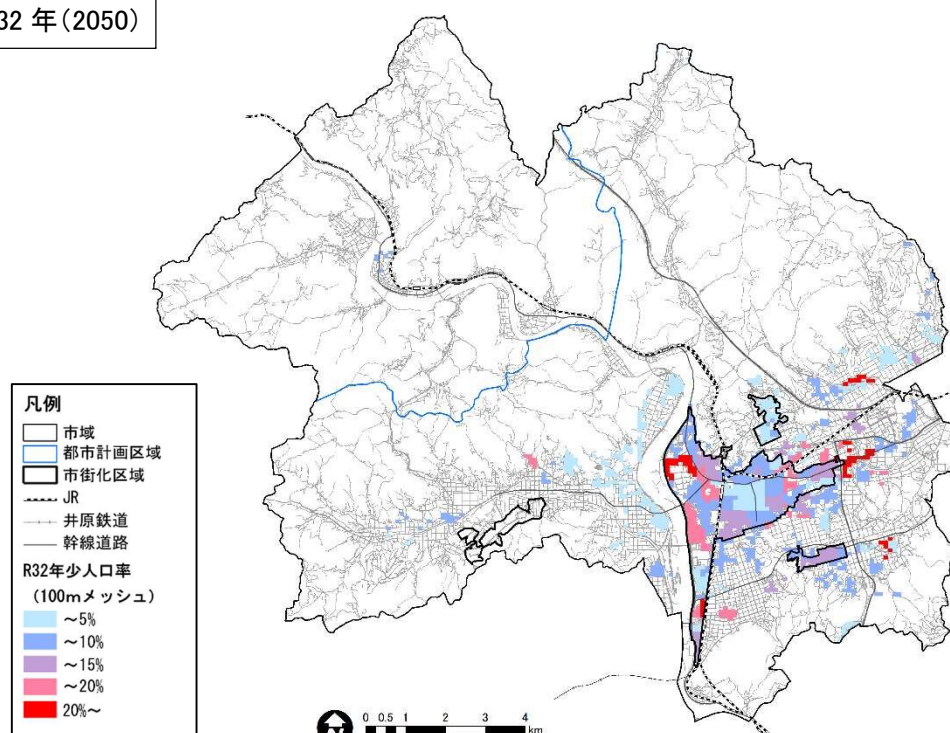
令和2年から令和32年の年少人口率増減量をみると、市街化区域のJR総社駅南側や山手地区において、年少人口率が大きく減少している箇所が分布しています。

図 年少人口率の分布（令和2年（2020）及び令和32年（2050））

令和2年(2020)

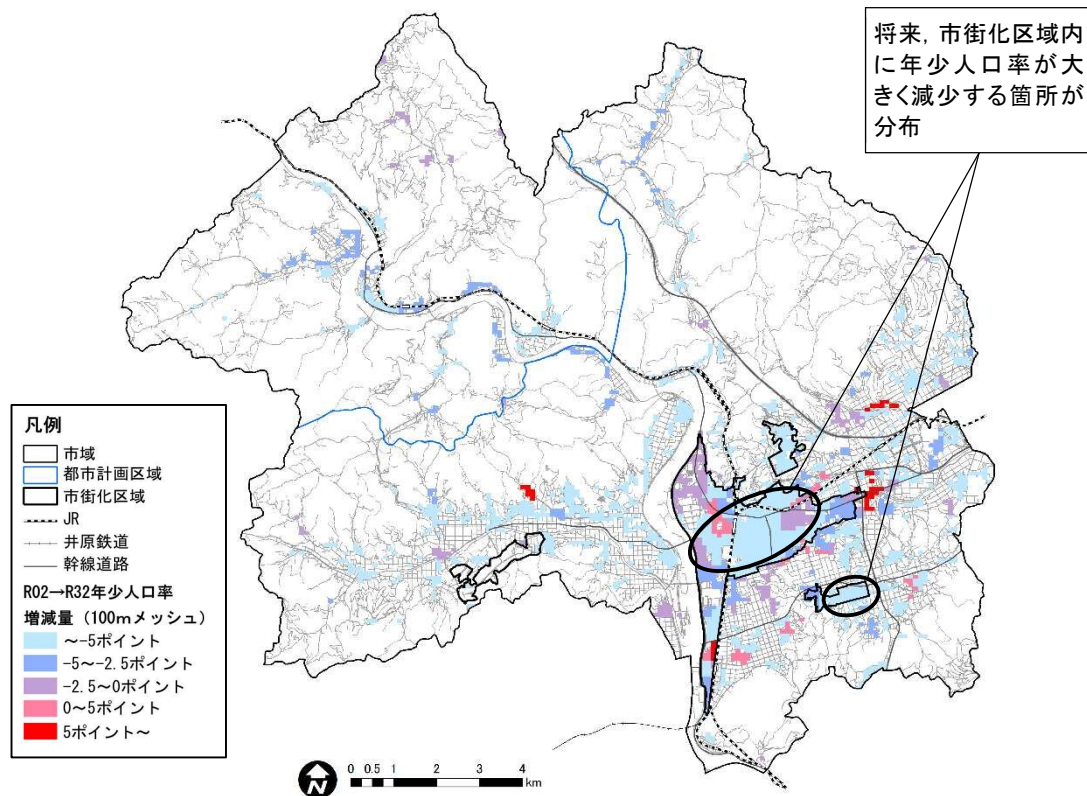


令和32年(2050)



参考：国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール」（ver3）を用いた計算結果を加工して作成
令和2年：国勢調査，令和32年：社会保障・人口問題研究所推計に準じて算出（令和2年人口を基準）

図 年少人口率増減量（令和 2 年（2020）から令和 32 年（2050））



参考：国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール」（ver3）を用いた計算結果を加工して作成
 令和 2 年：国勢調査，令和 32 年：社会保障・人口問題研究所推計に準じて算出（令和 2 年人口を基準）

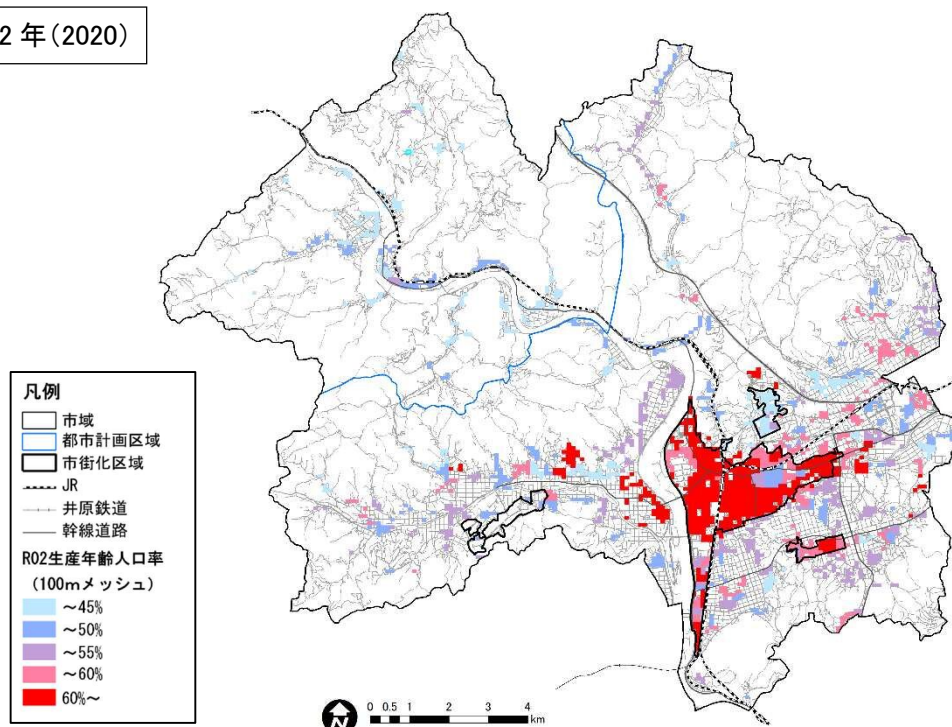
(3) メッシュあたり生産年齢人口率の変化

メッシュ（100m）あたり生産年齢人口率の分布状況をみると、令和2年では市街化区域内のみならず市東部・西部の広い範囲に60%以上の箇所が分布しますが、令和32年には市街化区域内のJR 伯備線西側、山手地区など一部を除き60%未満に減少します。

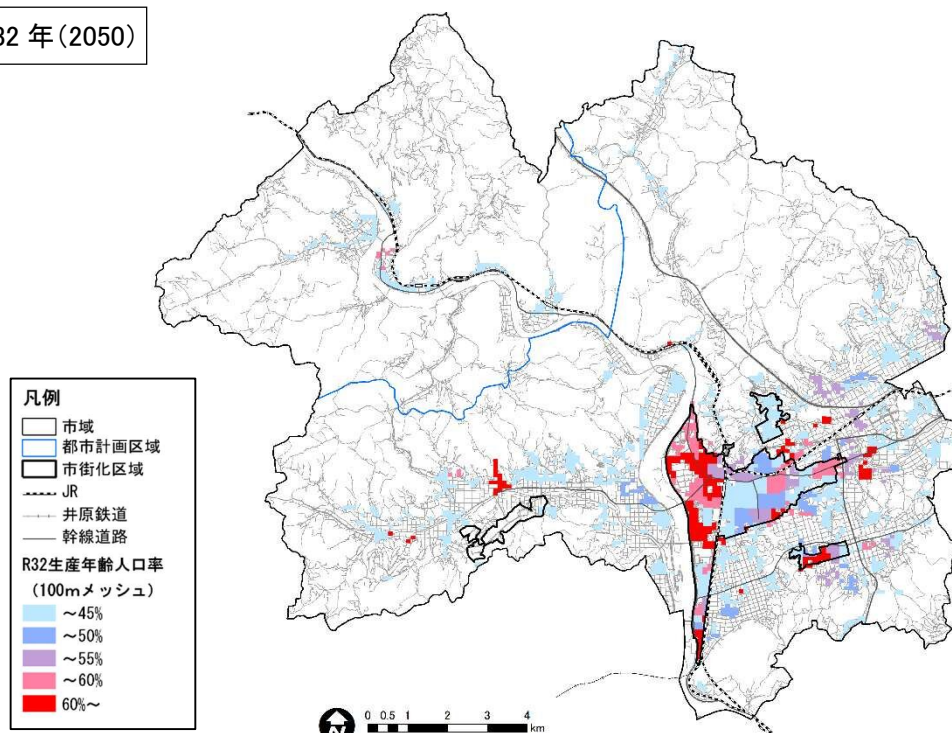
令和2年から令和32年の生産年齢人口率増減量をみると、市街化区域の内外によらず市全域で減少が予測されますが、JR 総社駅前及び山手地区において生産年齢人口率が維持される箇所が一部みられます。

図 生産年齢人口率の分布（令和2年（2020）及び令和32年（2050））

令和2年(2020)

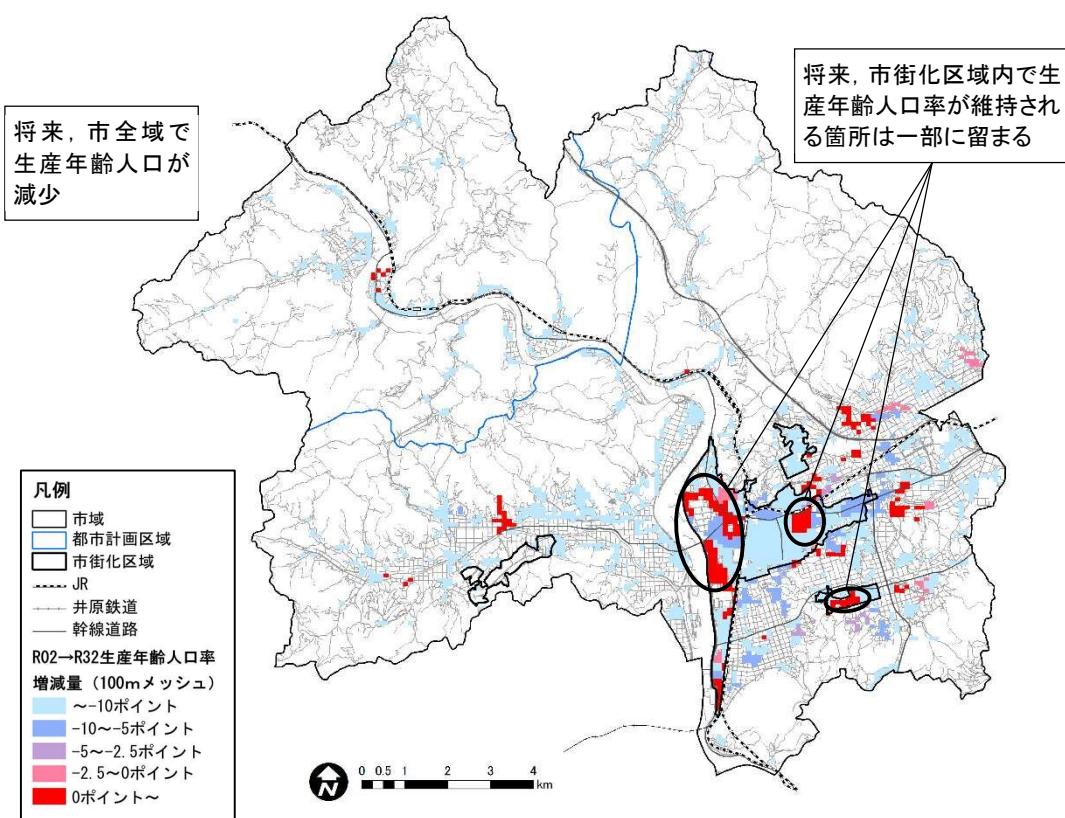


令和32年(2050)



参考：国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール」(ver3)を用いた計算結果を加工して作成
令和2年：国勢調査，令和32年：社会保障・人口問題研究所推計に準じて算出（令和2年人口を基準）

図 生産年齢人口率増減量（令和2年（2020）から令和32年（2050））



参考：国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール」（ver3）を用いた計算結果を加工して作成
 令和2年：国勢調査，令和32年：社会保障・人口問題研究所推計に準じて算出（令和2年人口を基準）

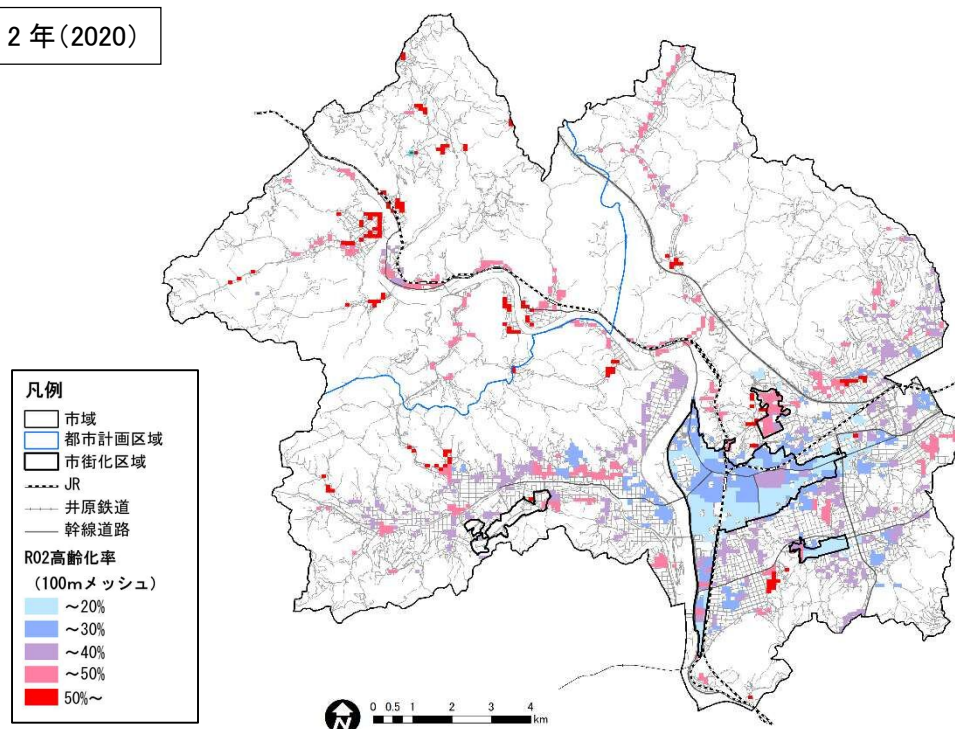
(4) メッシュあたり高齢化率の変化

メッシュ（100m）あたり高齢化率の分布状況をみると、高齢化率が40%を越えるメッシュは、令和2年（2020）では都市計画区域外の市北部及び都市計画区域内の市西部を中心とした一部地域に限られますが、令和32年（2050）には市街化区域も含めた市全域に広がっています。

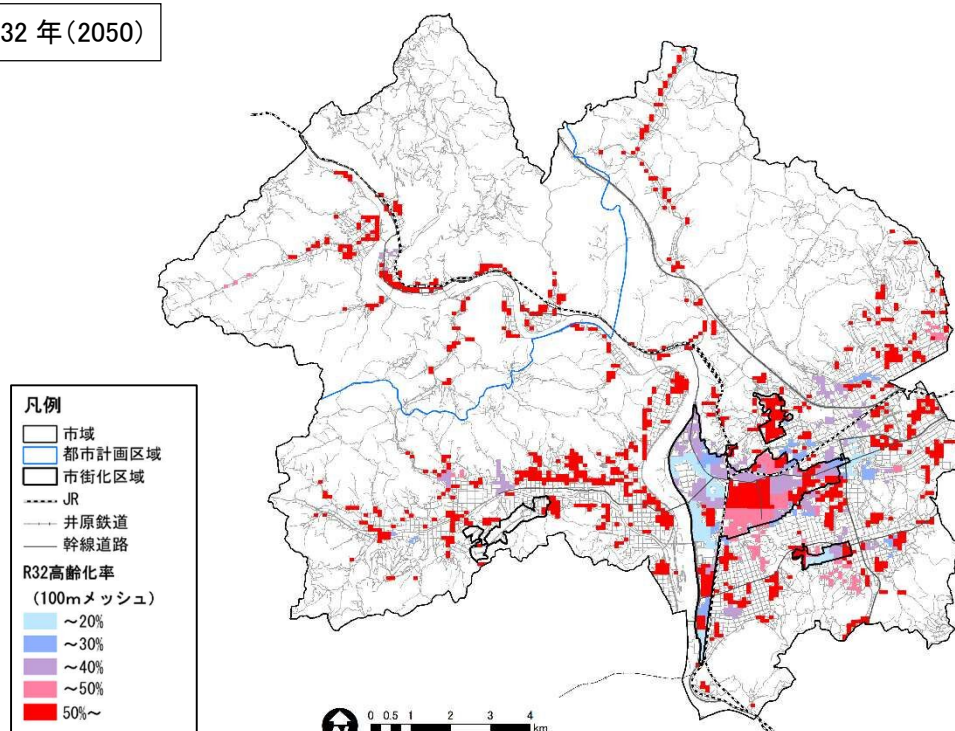
令和2年から令和32年の高齢化率増減割合をみると、市全域で10%以上の高い増加割合の箇所が分布し、市街化区域内では市街地中心部及び JR 伯備線西側、山手地区において高齢化の進展が顕著となります。

図 高齢化率の分布（令和2年（2020）及び令和32年（2050））

令和2年（2020）

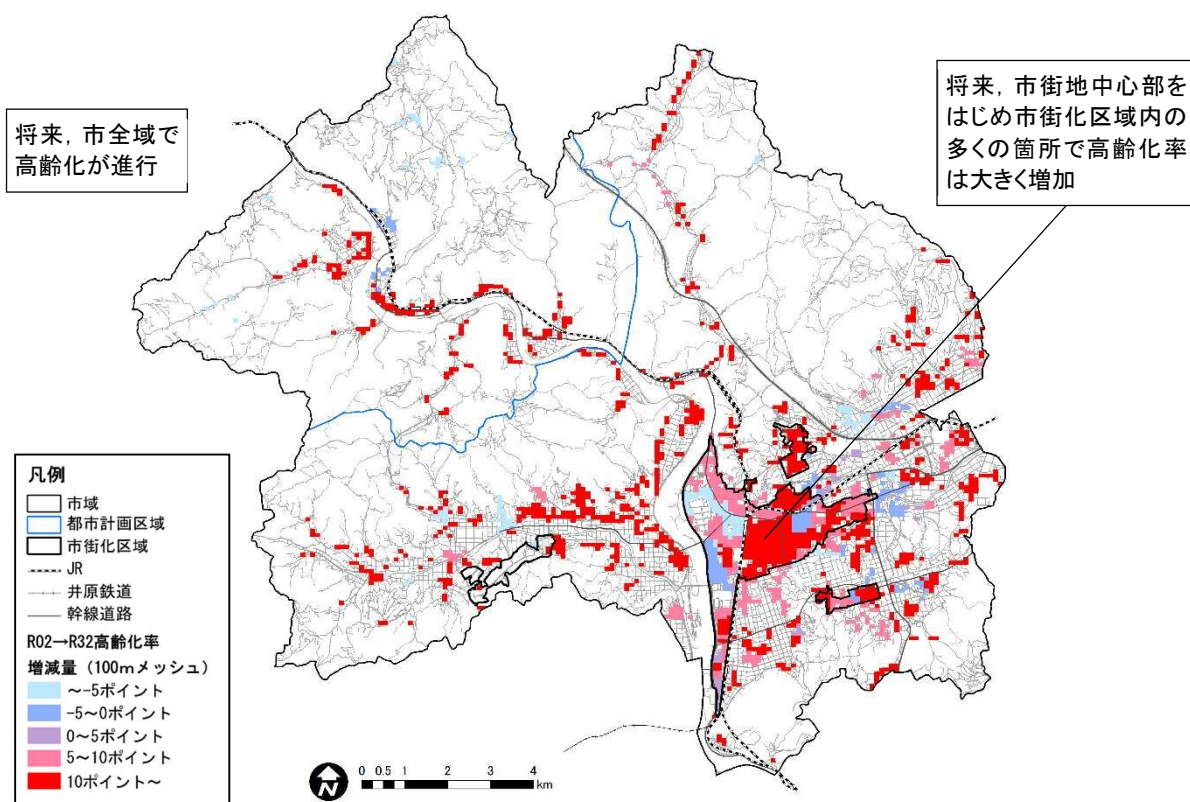


令和32年（2050）



参考：国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール」（ver3）を用いた計算結果を加工して作成
令和2年：国勢調査，令和32年：社会保障・人口問題研究所推計に準じて算出（令和2年人口を基準）

図 高齢化率増減量（令和2年（2020）から令和32年（2050））



参考：国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール」（ver3）を用いた計算結果を加工して作成
令和2年：国勢調査，令和32年：社会保障・人口問題研究所推計に準じて算出（令和2年人口を基準）

1-4. 都市施設の立地状況

市民の日常生活サービスを支える、医療、福祉、商業施設等の都市機能の状況について、施設の立地状況と利用圏域を把握します。施設の立地と利用圏域は、都市機能の集積度や不足する状況を把握するため、次頁以降に、都市機能別に図示します。都市機能の利用圏域は、都市構造の評価に関するハンドブック（国土交通省）に基づき、半径 800m 圏と仮定します。

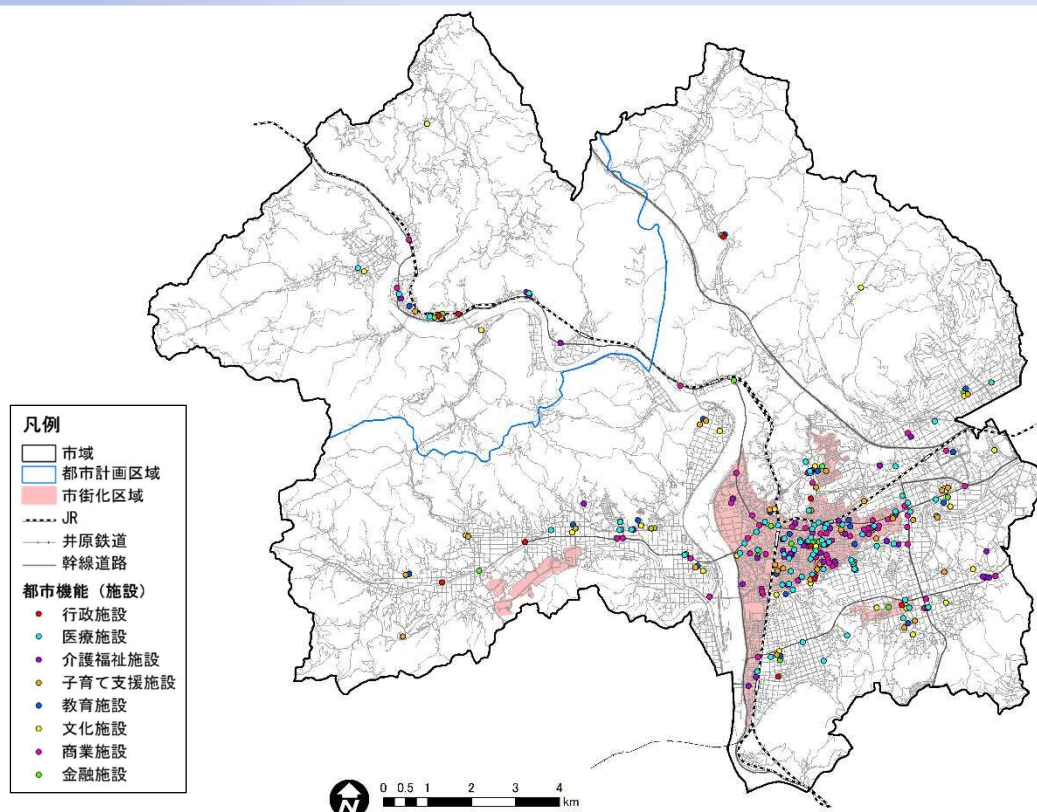
1-4-1. 都市機能の概況

本市に立地する都市機能（施設）は、322 施設あり、うち約半数の 155 施設が市街化区域内に立地しています。施設の分布をみると、分類に関わらず、その多くが JR 総社駅東側から JR 東総社駅にかけて立地しています。また、市街化調整区域では、幹線道路沿道に施設が立地する傾向がみられます。分類ごとの立地状況について、次頁以降に整理します。

表 都市機能の施設数（令和 7 年度時点）

分類	施設	市街化区域	市街化調整区域	都市計画区域外	合計
行政施設	市役所、警察署、消防署等	2	6	2	10
医療施設	病院、診療所	41	31	4	76
介護福祉施設	訪問、通い、多機能等	25	22	4	51
子育て支援施設	幼稚園、保育所、認定こども園等	15	25	2	42
教育施設	小学校、中学校、高等学校、大学	7	12	2	21
文化施設	文化施設、交流施設、集会施設	10	24	5	39
商業施設	ショッピングセンター、スーパー、コンビニ等	43	17	2	62
金融施設	銀行、信用金庫、郵便局	12	7	2	21
合計		155	144	23	322

図 都市機能（施設）の分布



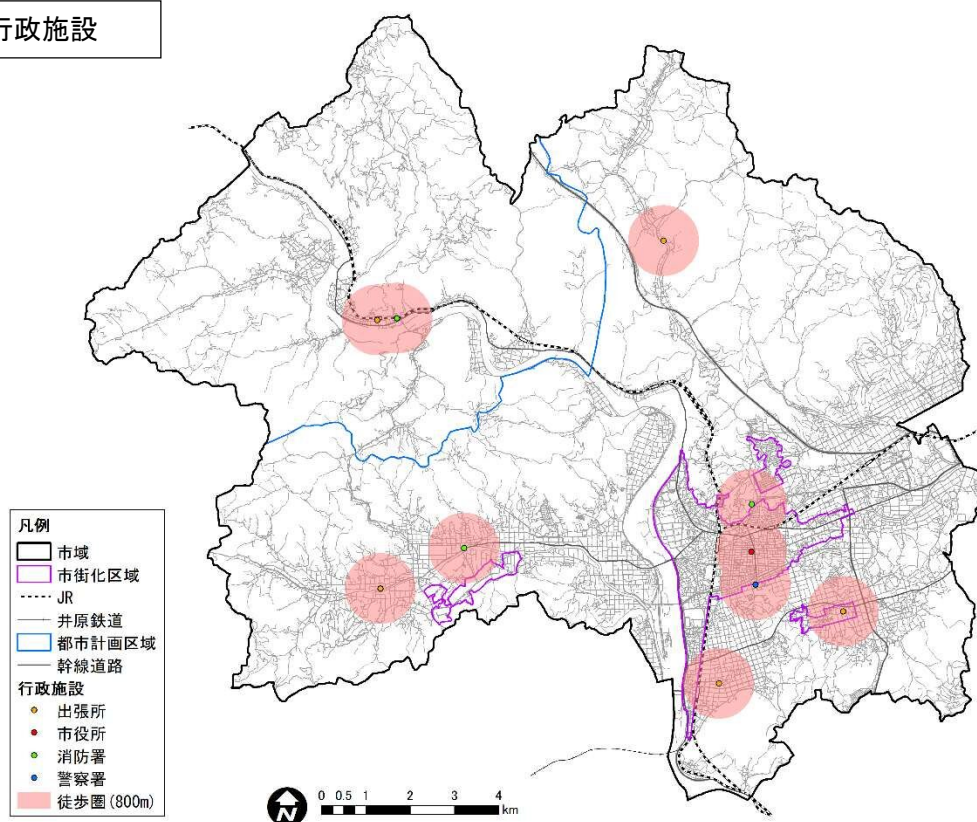
出典：おかやまオープンデータカタログ、岡山県HP、国土数値情報、介護サービス情報公表システム、iタウンページ、Googleマップ、金融機関コード・銀行コード・支店コード検索、日本郵政HP

1-4-2. 施設類型別の立地状況

施設類型別の都市施設立地状況を以下に整理します。

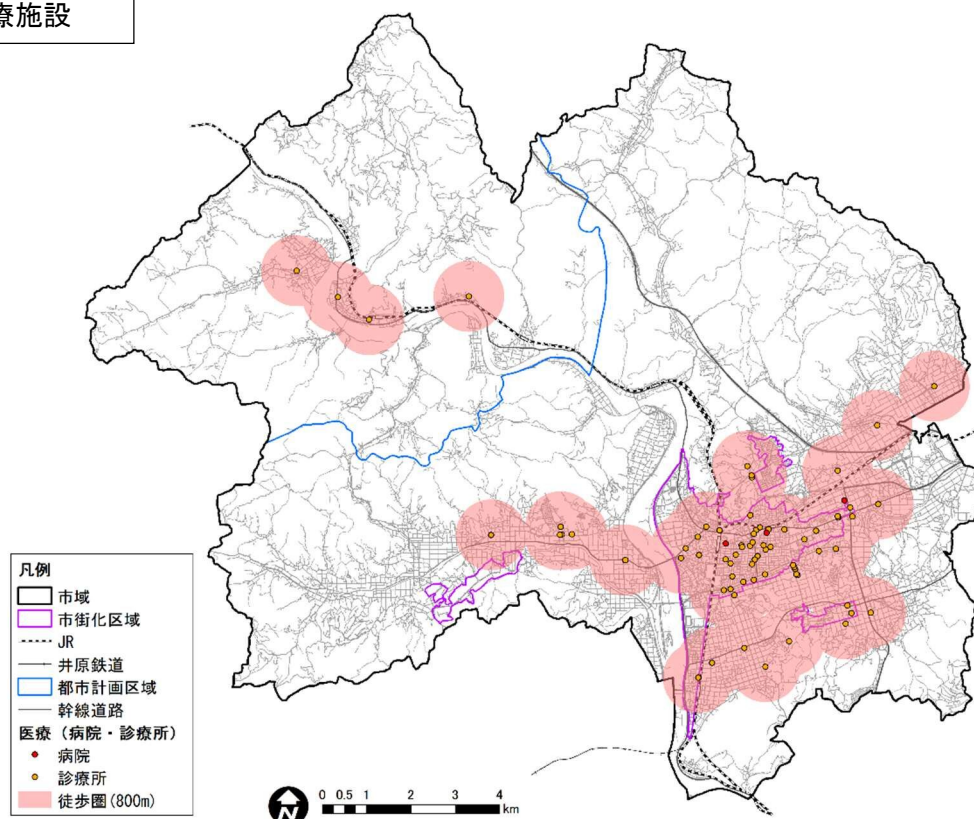
図 施設類型別の都市施設立地状況

行政施設



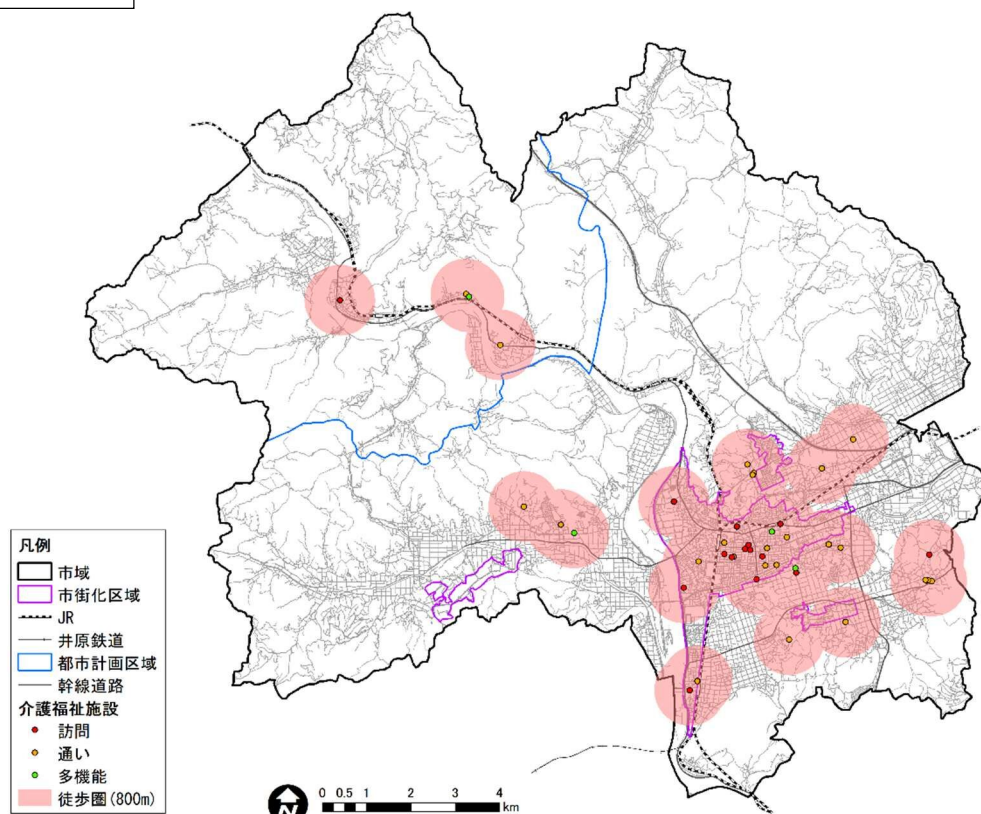
出典：総社市_公共施設一覧_2025年3月（おかやまオープンデータカタログ）を加工

医療施設



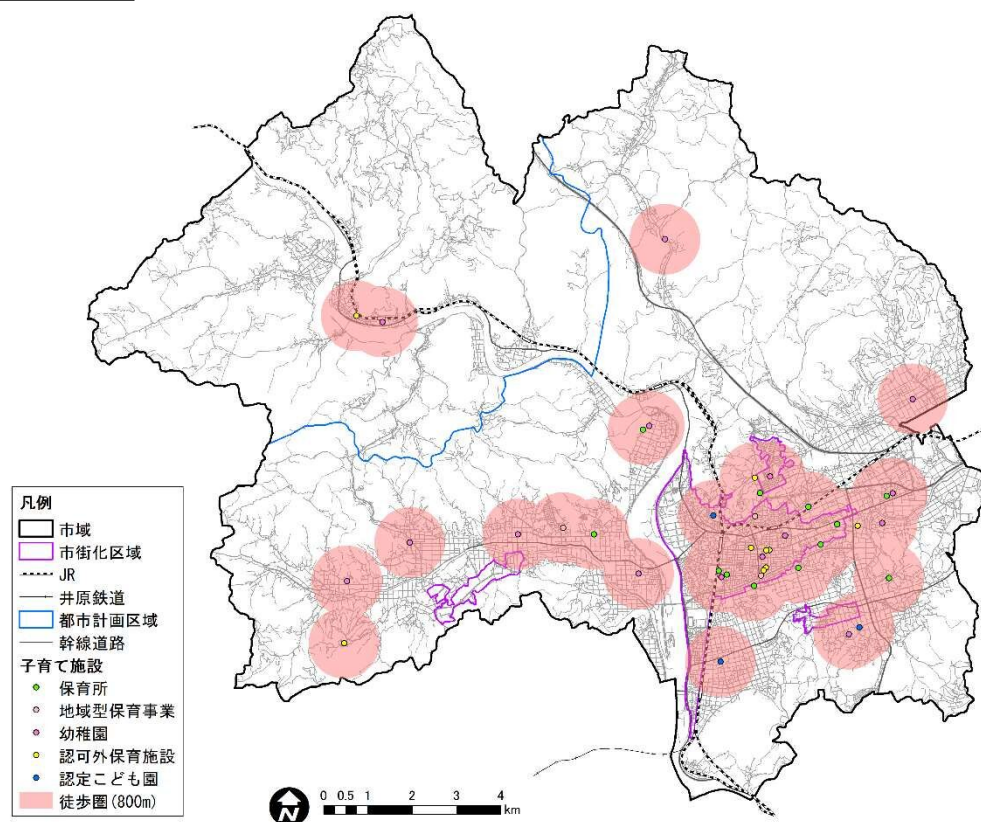
出典：国土数値情報[医療機関]（2020年）を加工

介護福祉施設



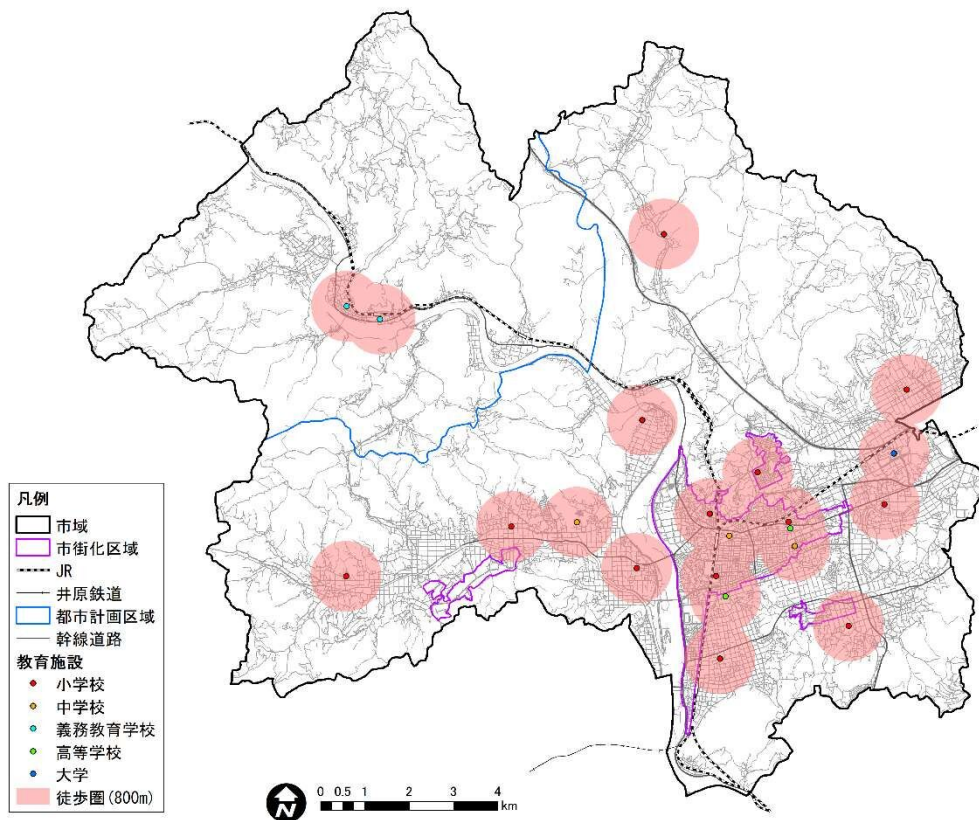
出典：介護サービス情報公表システム（通所系，訪問系，小規模多機能施設を抽出，2025 年 7 月閲覧）

子育て支援施設



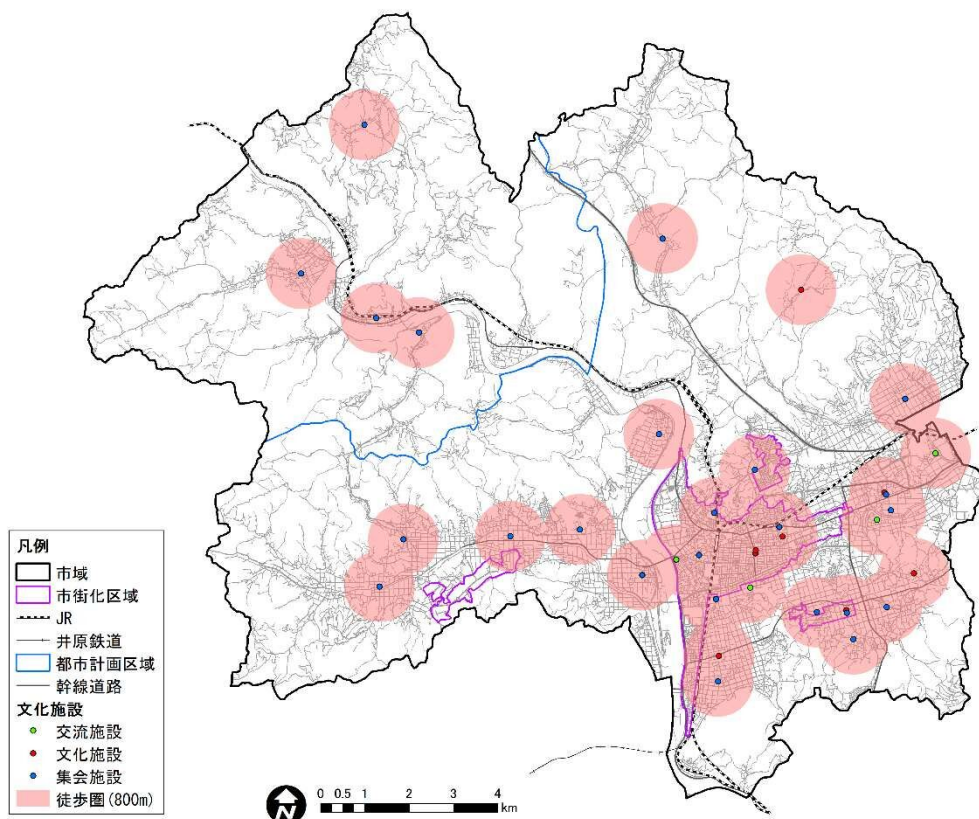
出典：総社市_公共施設一覧_2025 年 3 月（おかやまオープンデータカタログ），認可外保育施設一覧表（岡山県 HP）

教育施設



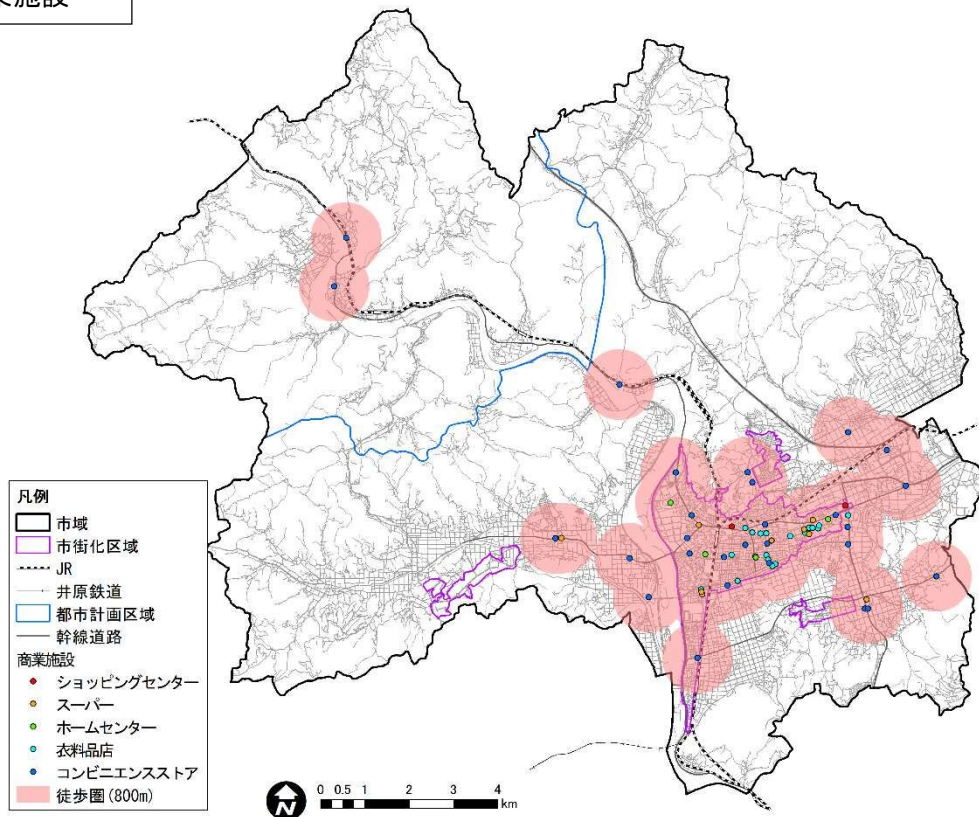
出典：総社市_公共施設一覧_2025 年 3 月（おかやまオープンデータカタログ）を加工

文化施設



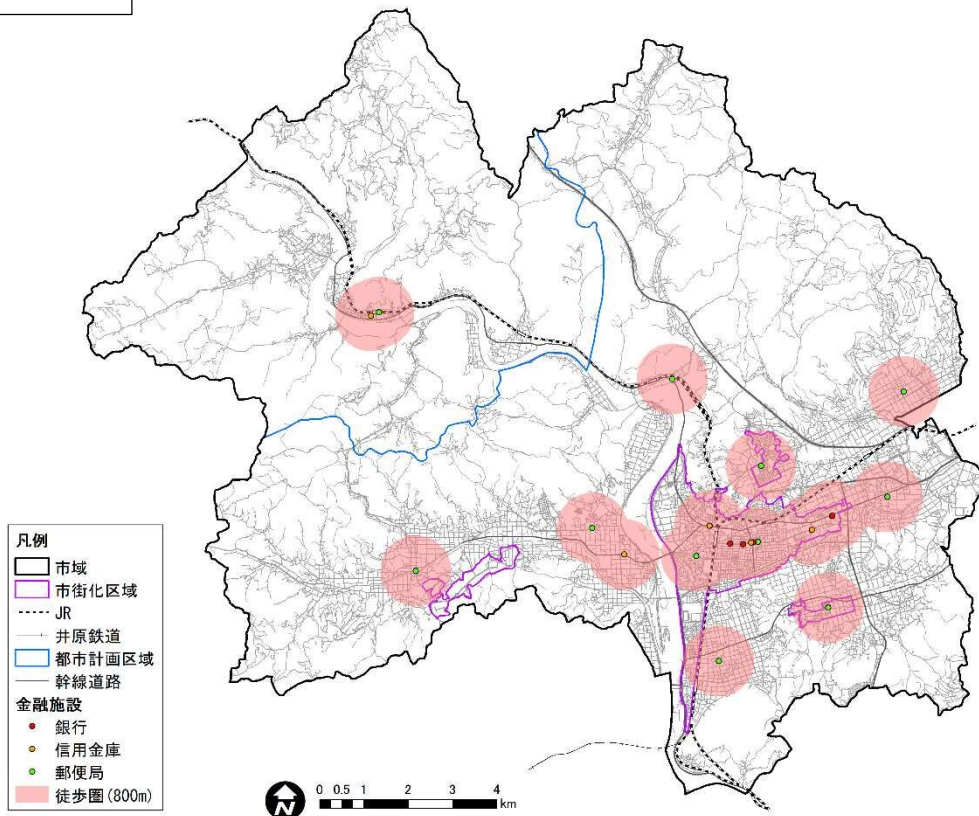
出典：総社市_公共施設一覧_2025 年 3 月（おかやまオープンデータカタログ）を加工

商業施設



出典：iタウンページ，Google マップ（2025年7月閲覧）
岡山県大規模小売店舗の届出（岡山県HP）

金融施設



出典：＜銀行・信用金庫＞出典：金融機関コード・銀行コード・支店コード検索（2025年7月閲覧）
＜郵便局＞出典：日本郵政HP（2025年7月閲覧）
※ATMのみの施設は除く

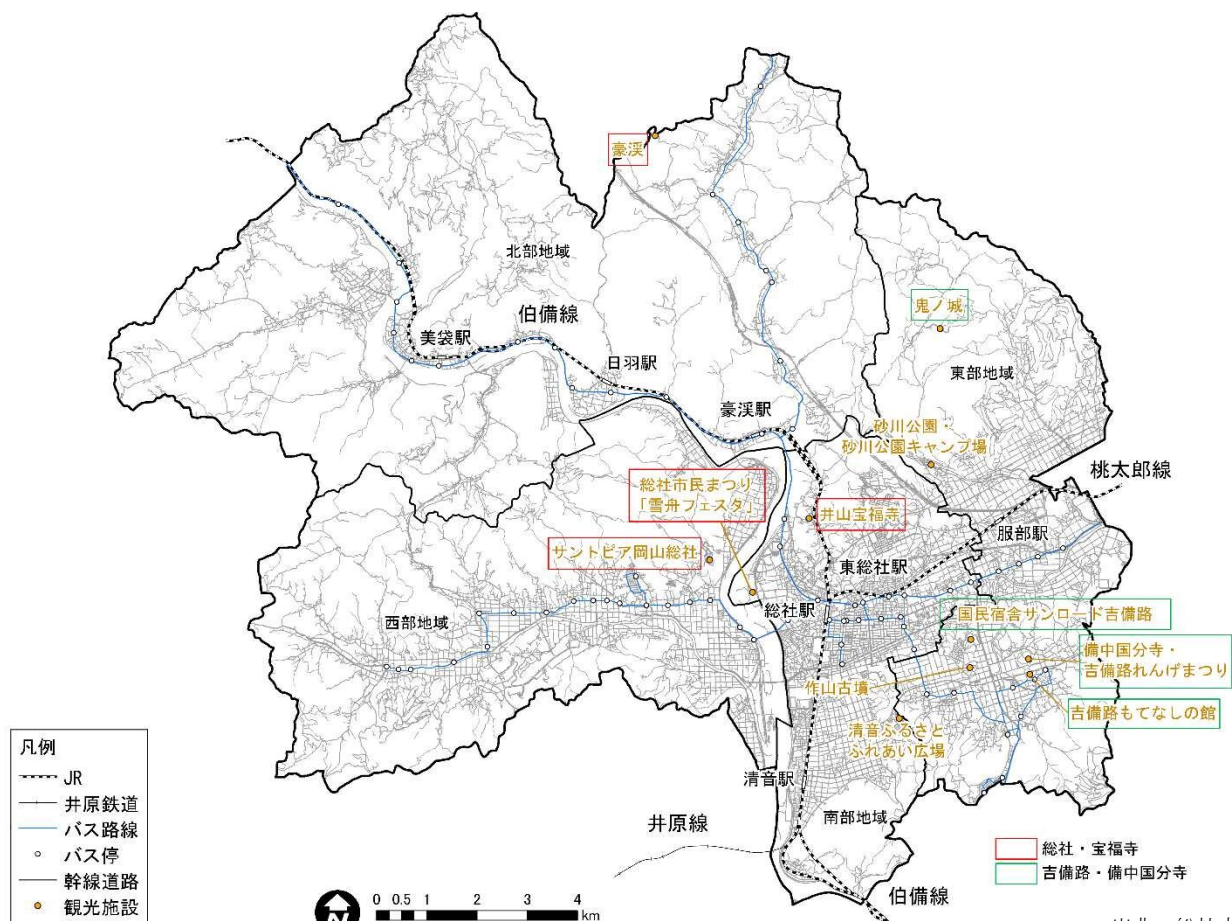
1-5. 観光動向

1-5-1. 観光施設の立地状況

市内には、井山宝福寺や備中国分寺などの観光施設が市内南東部に多く立地しています。

しかし、鉄道駅から離れた施設が多く、バス路線のネットワークや便数を考えると、公共交通でのアクセスが困難な施設が多く存在しています。

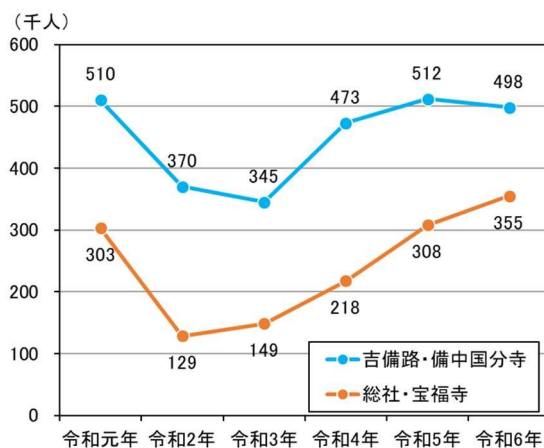
図 観光施設の立地状況



1-5-2. 観光客数の推移

主要施設の観光客数の推移をみると、コロナ禍以降、吉備路自転車道沿線に立地する備中国分寺では増加・横ばい傾向にあり、総社・宝福寺は増加傾向にあります。

図 観光客数の推移



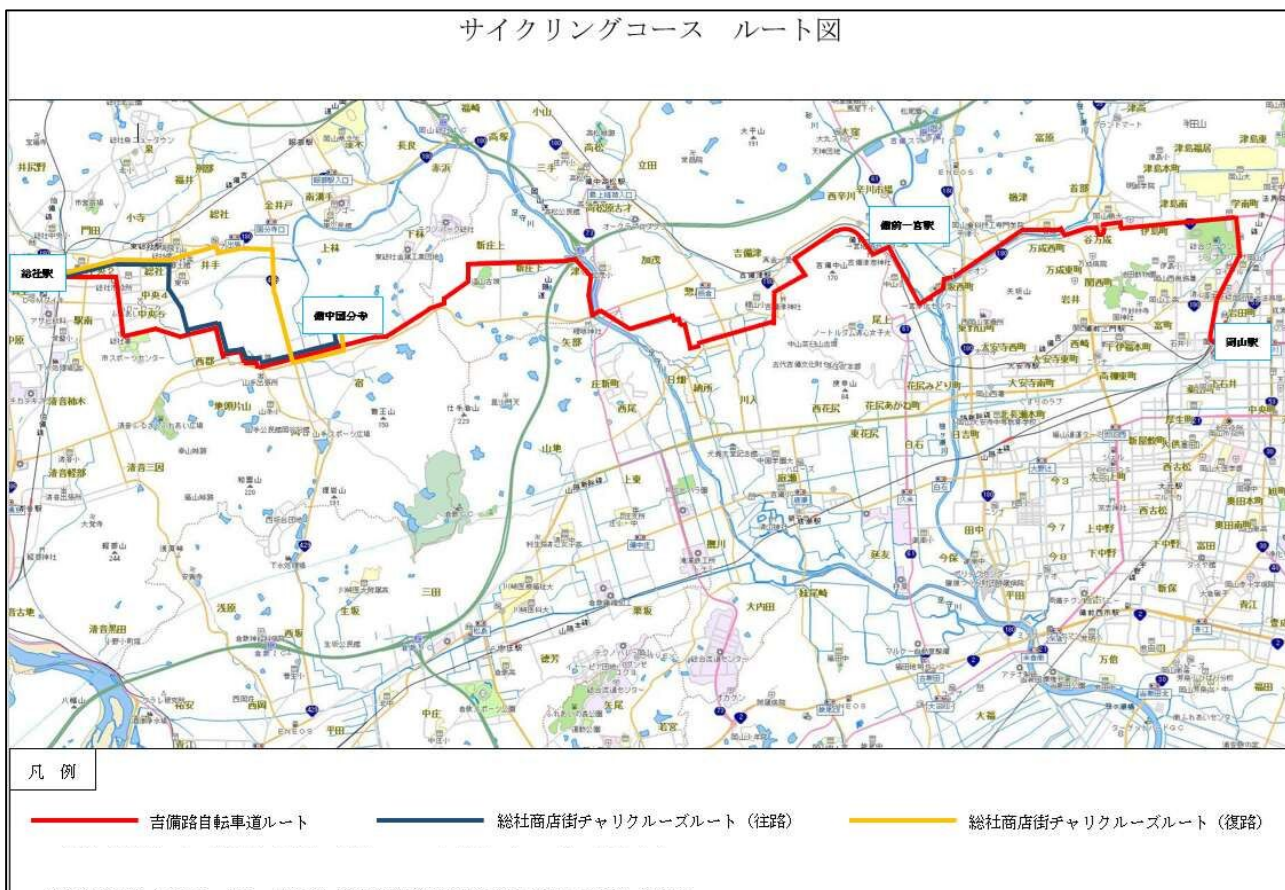
出典：岡山県観光客動態調査

1-5-3. サイクルロードの指定状況

総社市と岡山市を結ぶ全長約 21km の自転車・歩行者専用の道路が県指定の本格的なサイクリングロードとして指定されており、このうち、総社駅から備前一宮駅まで(約 15km)の区間が「吉備路自転車道」です。春は、れんげや菜の花など四季折々の自然が溢れ、のどかな風景を楽しめます。

また、備中国分寺や作山古墳など数多く残る古墳や史跡を巡り、吉備の国のロマンあふれる歴史に触れることができます。

あわせて、吉備路自転車道の支線として総社商店街通り付近を通る「総社商店街チャリクルーズルート」が岡山県に認定されております。



出典：総社市公式観光 WEB サイト

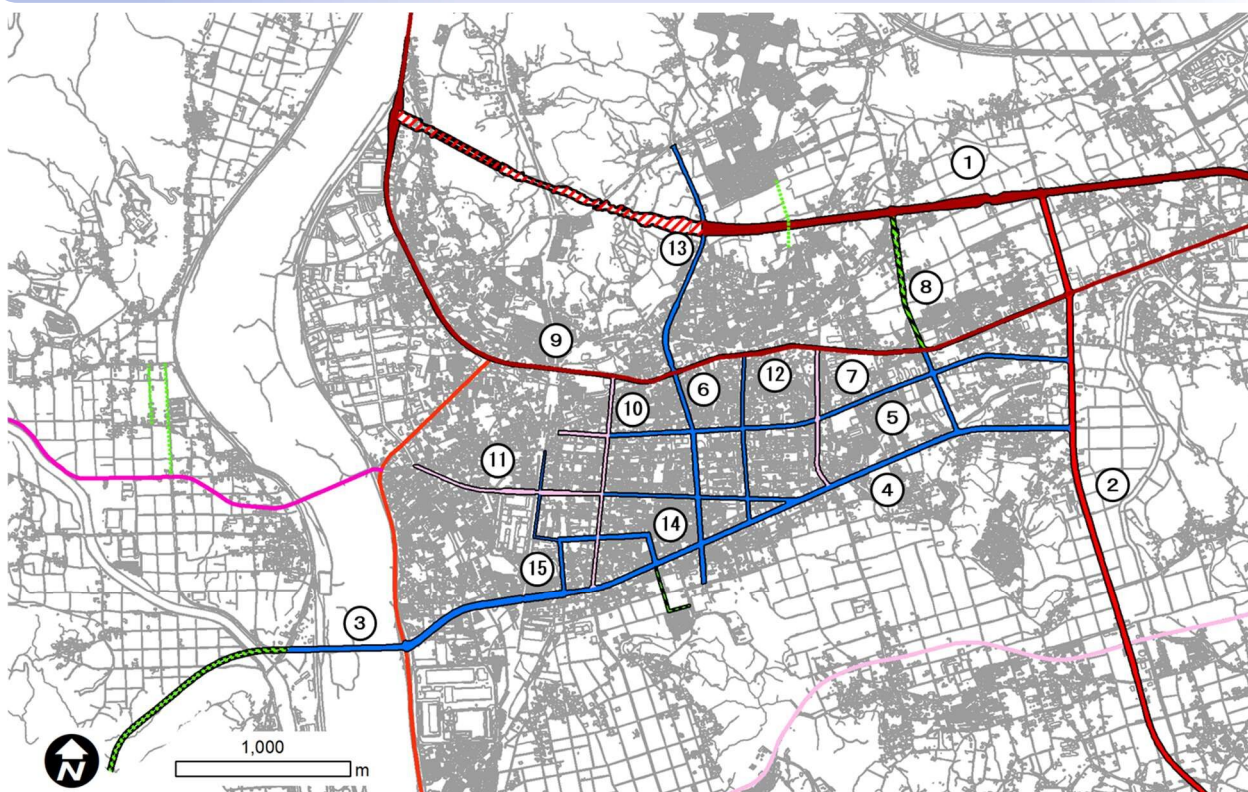
2. 道路特性

2-1. 市道ネットワーク

本市が将来にわたって活力ある地域として発展していくためには、道路ネットワークの向上は必要不可欠です。

本市の道路ネットワークをみると、整備が進んでいる東西方向の路線に比べ、市内東部を中心に南北方向の路線は脆弱です。現在、国道 180 号総社・一宮バイパスと東総社駅前泉本線の整備も進められており、将来の交通状況の変化を見据えた南北路線（刑部三須線，（仮称）神在秦本線等）を強化していくことが重要となっています。

図 総社市の道路ネットワーク



凡例

- 国道（国管理）
- /// 国道（国管理・未整備）
- 国道（県管理）
- 主要県道
- 一般県道
- 市道（改良済）
- 未整備

記号	路線番号	路線名
①	3・2・2	総社国道180号線
②	3・3・28	倉敷山手総社線
③	3・3・29	総社真備船穂線
④	3・3・総301	東総社中原線
⑤	3・4・総401	総社駅前線
⑥	3・4・総402	総社中央線
⑦	3・4・総403	宮本町山手線
⑧	3・4・総404	刑部三須線
⑨	3・5・総501	総社本線
⑩	3・5・総502	門田三輪線
⑪	3・5・総503	常盤橋井手線
⑫	3・5・総504	元町井手線
⑬	3・5・総505	門田小寺線
⑭	3・5・総506	駅南幹線1号線
⑮	8・7・総701	駅前運動公園線

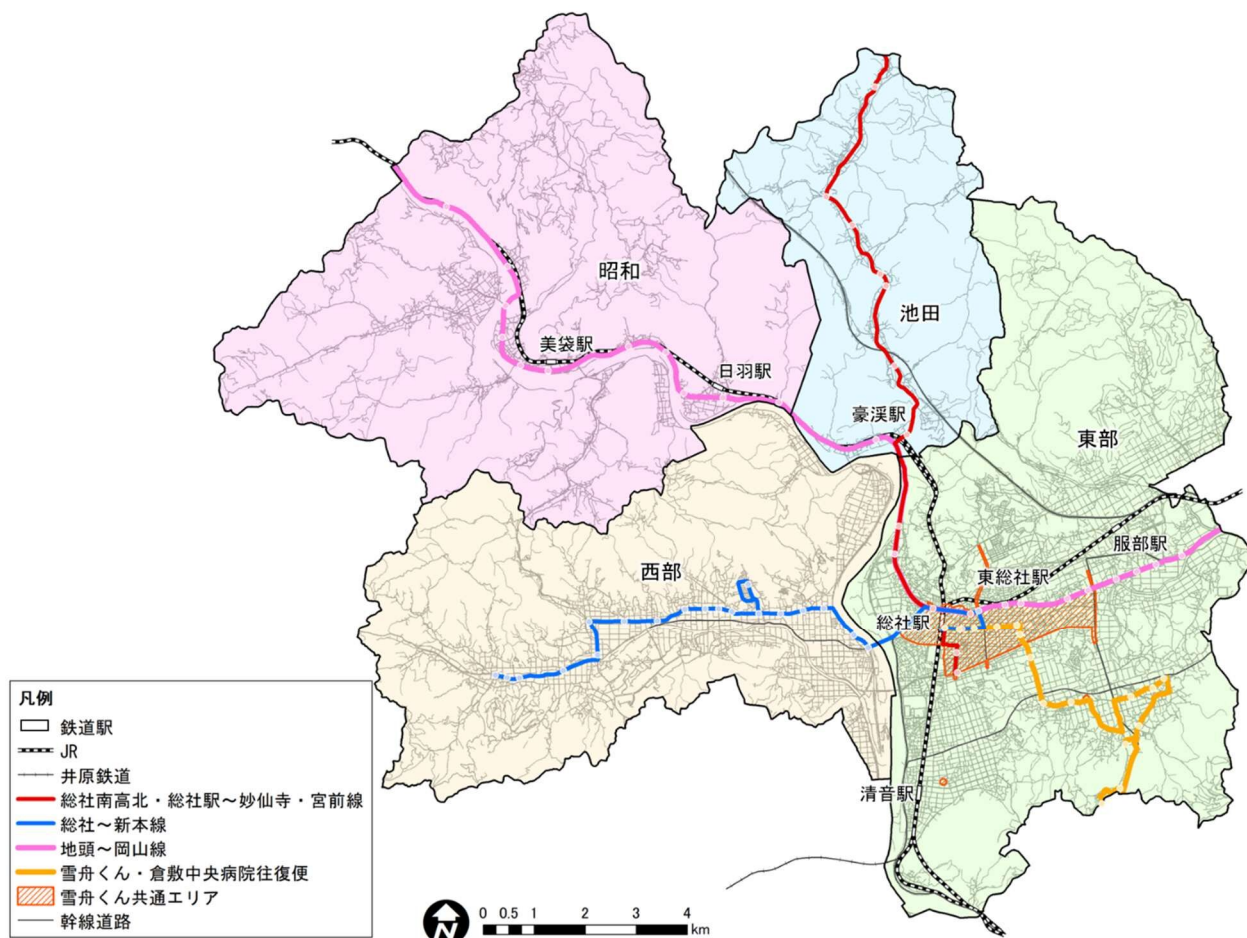
出典：国土数値情報[都市計画決定情報データ]（2022年），[緊急輸送道路]（2024年），岡山県の都市計画（2025年）

3. 公共交通特性

3-1. 公共交通ネットワーク

総社市には、鉄道及び路線バスが下図のネットワークで運行されているほか、総社市新生活交通「雪舟くん」が市内4地域（東部エリア、西部エリア、池田エリア、昭和エリア）と共通エリアを結ぶ形で運行しています。

図 公共交通ネットワーク



出典：総社市資料，岡山県オープンデータ，国土数値情報[バス停留所，バスルート]（2022 年）

3-2. 鉄道

市内には、JR 伯備線及び JR 吉備線（桃太郎線）、井原鉄道井原線の 3 路線が運行されています。

JR 伯備線は、倉敷駅（倉敷市）を起点として伯耆大山駅（鳥取県米子市）に至る路線です。市内には清音駅、総社駅、豪渓駅、日羽駅、美袋駅の 5 駅が所在しており、各駅間は複線となっています。

JR 桃太郎線は、岡山駅（岡山市）を起点として総社駅に至る非電化・単線の路線であり、市内には服部駅、東総社駅、総社駅の 3 駅が所在しています。

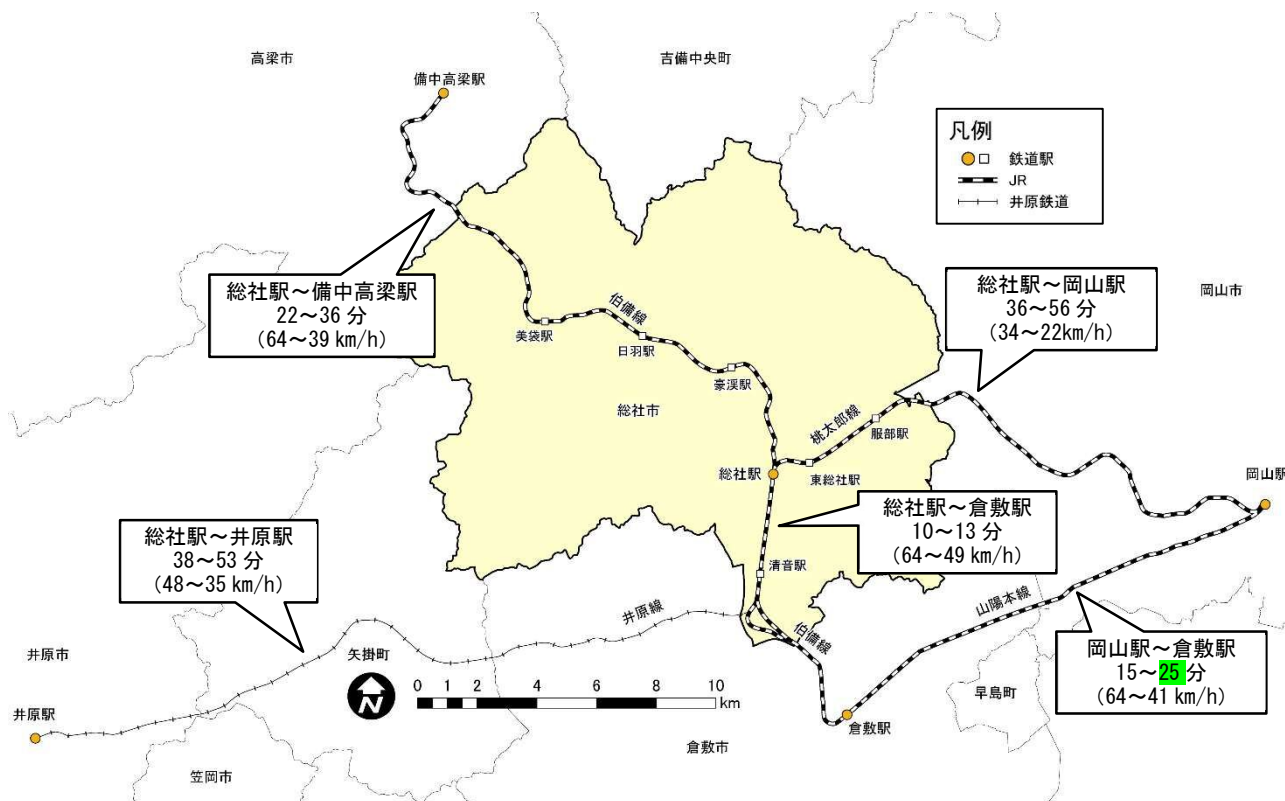
井原鉄道井原線は、総社駅を起点に、清音駅を経て神辺駅（広島県福山市）に至る路線です。総社駅～清音駅間は JR 伯備線との共用区間ですが、清音駅以遠は単線の非電化区間となっています。

3-2-1. 所要時間

各路線の駅間の所要時間をみると、JR 山陽本線（岡山駅～倉敷駅間）及び JR 伯備線（総社駅～倉敷駅間）において所要時間が短い一方、井原鉄道井原線（総社駅～井原駅間）及び JR 桃太郎線（総社駅～岡山駅間）において所要時間が長くなっています。

特に、JR 桃太郎線（総社市～岡山市間）は、最大で 56 分の所要時間となっています。

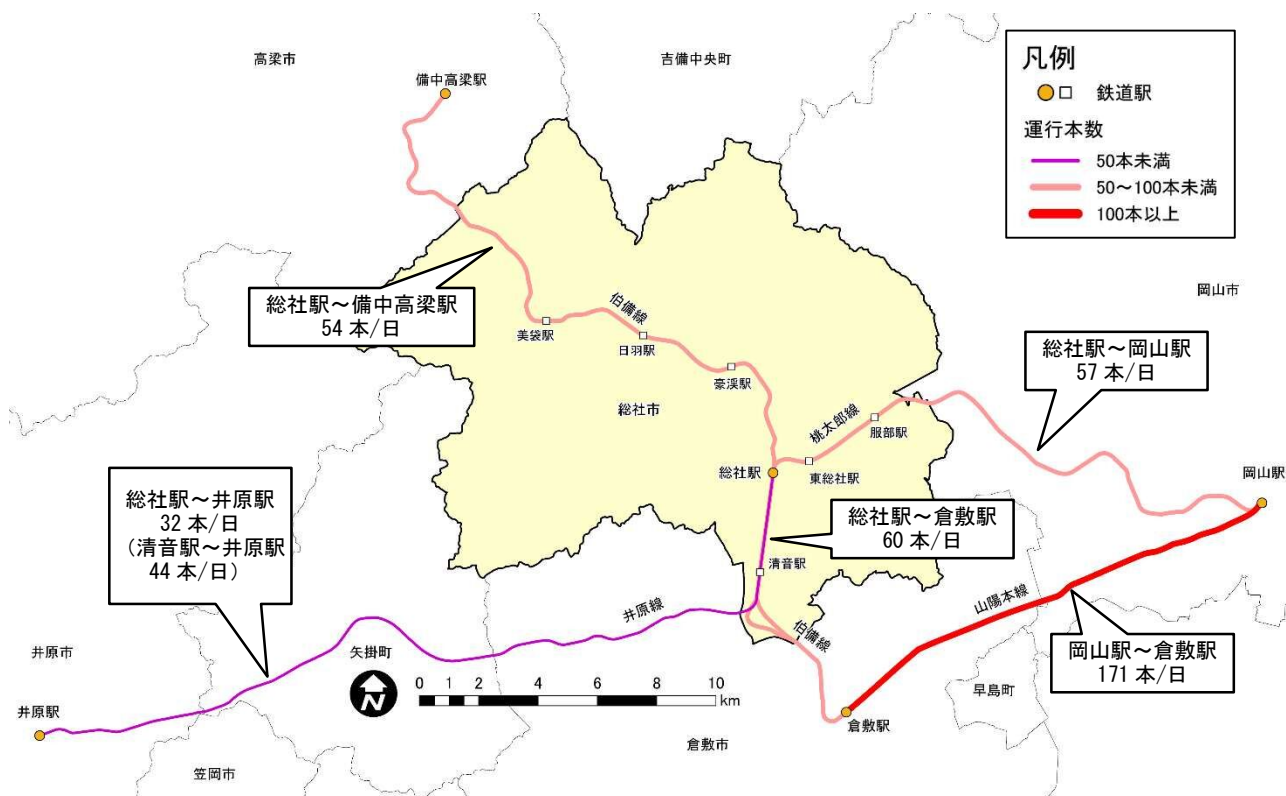
図 鉄道路線の所要時間



3-2-2. 運行本数

各路線の運行本数をみると、JR 山陽本線（岡山駅～倉敷駅間）では 171 本/日であるのに対し、JR 伯備線（備中高梁駅～倉敷駅間）及び JR 桃太郎線（総社駅～岡山駅間）では約 60 本/日であり、1 時間あたり片道 1～2 便の運行本数となっています。

なお、井原鉄道井原線の運行本数は総社駅～井原駅間では 32 本/日、清音駅～井原駅では 44 本/日とさらに少なくなっています。



出典：JR おでかけネット，NAVITIME（JR 西日本時刻表），井原鉄道株式会社 HP（時刻表）（2025 年 10 月閲覧）
※特急は除いて集計

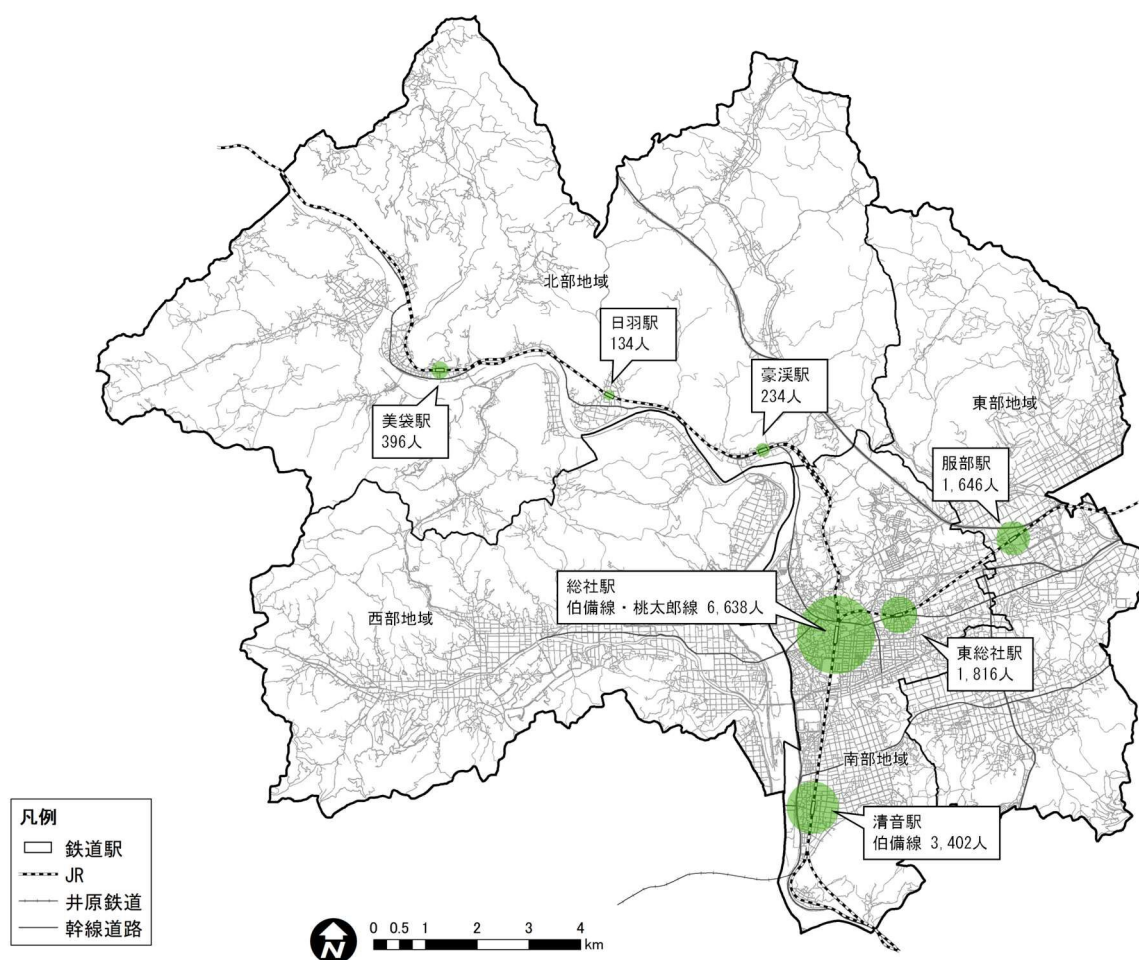
3-2-3. 乗降客数

(1) 駅別乗降客数(人/日)

駅別乗降客数は、総社駅が 6,638 人(伯備線・桃太郎線両線合計)と最も多く、以下、清音駅(3,402 人)、東総社駅(1,816 人)、服部駅(1,646 人)の順になっています。

一方、総社駅より北に位置する JR 伯備線各駅の乗降客数は日羽駅が 134 人、豪渓駅が 234 人と少ない状況です。

図 駅別乗降客数



※降車人員は乗車人員と同じ数字となる。
※井原線の乗車人員は調査未実施のためデータなし。
出典：西日本旅客鉄道株式会社(令和6年度)

(2) 駅別乗降客数の推移

1) JR

駅別乗降客数の推移をみると、市内の全駅が、令和元年度（2019）から令和6年度（2024）の6年間に於いて横ばいから微減傾向で推移しています。

表 JR 西日本各駅の一日あたり乗降客数の推移

単位：人

年度	伯備線					桃太郎線		
	清音	総社	豪渓	日羽	美袋	東総社	服部	足守
令和元年度	3,358	7,012	262	166	510	1,864	1,656	1,272
令和2年度	2,988	5,822	226	142	432	1,590	964	1,080
令和3年度	3,032	5,878	216	136	398	1,552	1,118	1,062
令和4年度	3,248	6,244	240	154	396	1,642	1,382	1,108
令和5年度	3,368	6,588	256	146	400	1,738	1,502	1,106
令和6年度	3,402	6,638	234	134	396	1,816	1,646	1,094
令和元年度→ 6年度増減率	1.01	0.95	0.89	0.81	0.78	0.97	0.99	0.86
一日あたり 運行本数 (上下平均)	30.0	伯備線 33.0 桃太郎線 28.5	27.0	27.0	27.0	28.5	28.5	28.5

※令和元年度→6年度増減率：令和6年度一日あたり乗降客数／令和元年度一日あたり乗降客数

※総社駅の乗降客数は伯備線及び桃太郎線での区別は行われていない。

出典：令和元年度～令和6年度：西日本旅客鉄道株式会社
JR おでかけネット（2025年10月閲覧）

2) 井原鉄道井原線

井原線は各駅ごとのデータがなく、路線全体の日あたり輸送人員は、令和2年（2020）に新型コロナウイルス感染症流行の影響で減少したものの、それ以降は微増傾向となっています。

表 井原線全線の日あたり乗降客数の推移

単位：人

年度	井原線全線	
令和元年度	3,031	
令和2年度	2,311	
令和3年度	2,382	
令和4年度	2,561	
令和5年度	2,659	
令和元年度→ 5年度増減率	0.88	
一日あたり 運行本数 (上下平均)	総社	清音
	16.0	22.0

※令和元年度→5年度増減率：令和5年度一日あたり輸送人員／令和元年度一日あたり輸送人員

出典：岡山県統計年報，井原鉄道株式会社 HP（2025年10月閲覧）

3-3. 拠点駅周辺の状況（現地踏査結果）

本市の拠点駅（清音駅，総社駅，美袋駅，服部駅，東総社駅）周辺の状況について現地調査を行った結果は次のとおりです。

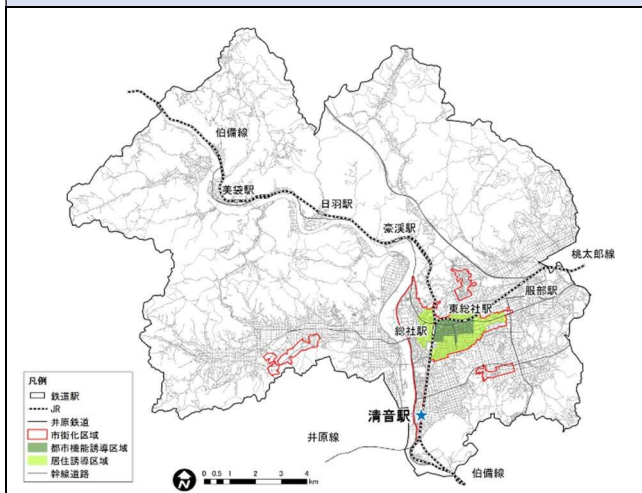
なお、拠点駅とは、総社市都市計画マスタープランに定める市域の中心的地域として都市機能の集積・強化を図る都市核、及び都市核とともに周辺部や郊外において既に形成されている拠点性の高い地域である地域拠点の中にある鉄道駅のことであり、交通体系上においても拠点となります。

表 各駅における施設設置状況

駅名	改札	エレベーター	駐車場	駐輪場
清音駅	西口 東口	○ ・東口、西口ともに、JR、井原鉄道どちらもエレベーターを利用できる	○ ・民間の時間貸し(14 台)、月極駐車場(20 台)あり ・別途パーク&ライド駐車場は 3 台あり(新幹線利用者のみ(新横浜以遠東京方面))	○ ・西口は民間駐輪場、東口は駅附属の市営駐輪場あり
		×	○ ・西口(36 台)、東口(24 台)ともに、線路沿線に民間時間貸し駐車場あり ・月極駐車場多数あり ・東口(77 台)、駅前広場(11 台)に市営時間貸し駐車場あり ・駅南高架下(76 台)に市営月極駐車場あり	○ ・民間駐輪場多数あり
美袋駅	南口	×	×	○ ・駐輪場あり
		・改札～倉敷方面行きホーム間は階段のみ	・時間貸し駐車場なし ・周辺に民間の月極駐車場あり(8 台)	
服部駅	北口	○ ・単線でホームが 1 つのため、エレベーター不要	△ ・駅南側(改札なし)に市営月極駐車場あり(44 台) ・時間貸し駐車場なし	○ ・駐輪場あり
		×	○ ・民間の時間貸し駐車場あり(6 台) ・民間の月極駐車場あり(4 台)	○ ・駐輪場あり
東総社駅	南口	×	○ ・民間の時間貸し駐車場あり(6 台) ・民間の月極駐車場あり(4 台)	○ ・駐輪場あり
		・改札～岡山方面行きホーム間は階段のみ		

清音駅

位置図

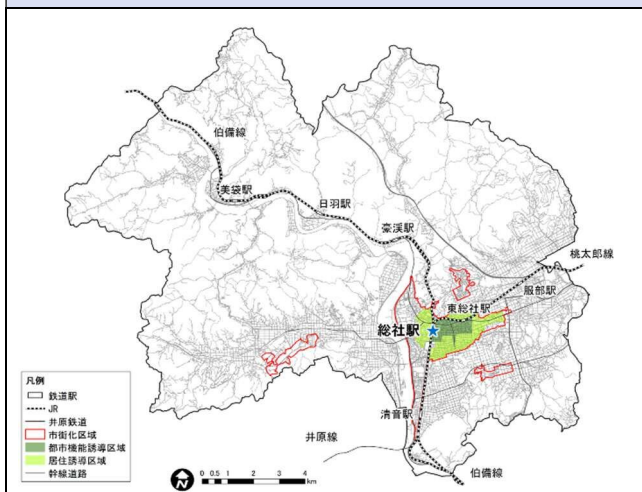


正面からの様子



総社駅

位置図

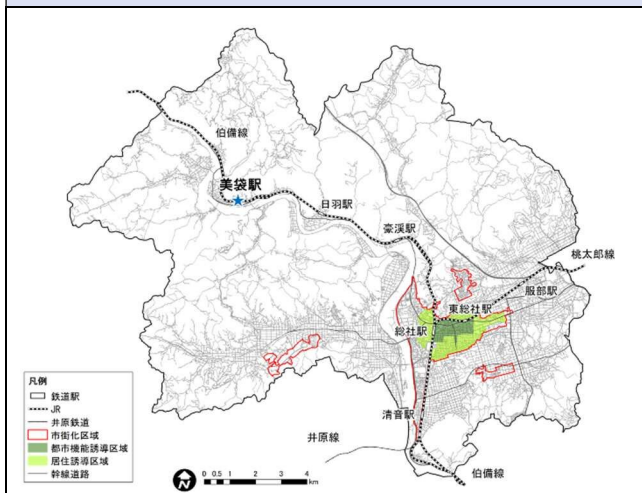


正面からの様子



美袋駅

位置図



正面からの様子



服部駅

位置図	正面からの様子

東総社駅

位置図	正面からの様子

調査日：令和7年7月4日